



佐賀市景観賞受賞作品集
～佐賀市景観賞25年のあゆみ～

佐賀市建設部 建築指導課

佐賀市景観賞受賞作品集

～佐賀市景観賞25年のあゆみ～



佐賀市 建設部 建築指導課

〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
TEL 0952-40-7172
FAX 0952-40-7392
E-mail kenchikushido@city.saga.lg.jp



目次

あいさつ	1
景観賞25年の歩み	2
景観賞について	3
表彰実績	4
景観賞受賞作品の紹介	5～57
関連年表	58
選考委員の変遷	59～60
受賞件数・応募件数・応募者数の推移	61
用語解説	62
景観賞受賞作品位置図	63～64

あいさつ



佐賀市長
坂井 英隆

日頃から、本市の景観行政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

「佐賀市景観賞」は、本市の魅力ある景観形成に貢献している建造物や活動、まちなみ等を表彰することにより、市民の皆様の景観やまちづくりに対する意識の向上を願い、平成9年度から始めた表彰制度でございます。この取り組みは、令和3年度をもって25年という歴史に一旦幕をおろすこととなりましたが、四半世紀の長きにわたり続けることができたことは、ひとえに市民の皆様をはじめ、関係者の皆様のご協力の賜物と存じます。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

今回、この「佐賀市景観賞」25年の歩みの集大成としまして、これまでの受賞作品を改めて紹介する「佐賀市景観賞受賞作品集」を作製する運びとなりました。全受賞作品をこの冊子に纏めておりますので、ご覧いただいた上で、ぜひ現地に赴いていただき、本市の魅力的な景観を感じていただければと思います。

景観賞を受賞した作品は、この25年間で101作品にのぼり、歴史的な建造物や豊かな自然を活かした景観、新しい街なみをつくりだす洗練されたデザインの建造物、さらには地域の景観を守り育てる活動など、いずれも多様性に富んだ魅力ある景観資源であり、その全てが本市にとってかけがえのない大きな財産となっております。

しかし、景観賞を受賞した作品の中にも、時代の移り変わりとともに、残念ながら失われていった景観資源がございます。一度失われた景観資源を再生することは非常に困難なものでございますので、我々は、ひとつでも多くの魅力的な景観を守り、育て、次の世代に継承していくことが非常に重要なことだと考えております。

今後も、「佐賀市景観賞」25年の歴史の中で培ってきた貴重な財産を活かし、より多くの市民の皆様が本市の魅力的な景観に誇りと愛着を持っていただけるような取り組みを続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、魅力的な景観は、行政の力だけでつくることができるものではありません。市民の皆様や事業者の方々と共につくりあげていくものでございます。自分の家先にお花を植えるなどの皆様一人ひとりの小さな行動や心掛けが素敵なまちづくりに繋がってまいります。今後も引き続き、本市の魅力ある景観づくりの担い手として、ご協力とご支援をしていただきますようお願いし、私の挨拶といたします。

景観賞25年の歩み



国立大学法人佐賀大学
理工学部 准教授
元 佐賀市景観賞
選考委員会委員長

後藤 隆太郎

良質な景観は、その地域のアイデンティティー（固有性）を表すもの、地域の文化・社会の資産であり、それらは地域活性化や観光などにも通じる資源といえます。したがって、佐賀市景観賞が毎年1つ1つ優れた景観を顕在化させてきたことに意義があると同時に、その積み重ねである25年、つまり四半世紀におよぶ総体にも大きな意義があるといえます。

佐賀市景観賞は、平成9年度に「都市景観賞」としてスタートし、当初その対象は市街地内の物的要素が中心であったようです。その後、第5回からは景観を支える人々の活動にも対象が広がり、第11回からは市町村合併を背景として、名称が「景観賞」と変更され、対象エリアも脊振山地から有明海沿岸までと広がっています。これに伴い、受賞作品も人によってつくられたものに加え、人と自然の相互作用によりつくられたものが次第に増えてきたように思います。受賞作品の種類としましては、住まい、各種施設、地区や集落、風景、活動などが入り混ざり、その中には歴史的建物や地区等の保全、新しい建築デザイン、景観形成とともにその営みが地域の維持に貢献するもの、環境学習や子の教育、佐賀らしい風景と関わるイベントなど、時代の価値や社会の要請とともに緩やかに変化しつつ、多様で多彩な建物や取り組みなどが表彰されてきました。

このような25年の蓄積には、応募された市民、受賞作品に関わった多くの方々、歴代の選考委員や事務局の多大なるご尽力があったことに、心から敬意を表します。私が選考委員長を務めた期間において、一連の取り組みが終わることに未練がないわけではありませんが、今後も良質な景観づくりが継続されることを祈念する次第です。

優れた景観づくりには経済性や機能性を超える過去への見識が不可欠であり、さらには、未来を見据えた議論や挑戦を育む気運の醸成、その支援も重要でしょう。都市や地域とは、われわれ人の手によってつくりつづけること、昨今の時勢から環境や安心安全にも配慮した高度なデザインがその維持のために大切です。併せて、佐賀市が恵まれた資源や特徴を有していることは本誌にも垣間見ることができ、これらを国内外に発信していただきたいとも思っております。そのためにも、25周年を記念した本誌掲載の受賞作品やコンテンツ群、価値づくりの蓄積を未来の糧としてご覧いただければ幸いです。

景観賞とは

佐賀市内にある建築物や緑など目に見えるものだけに限らず、そのものが醸し出す雰囲気など、総合的に景観の形成に貢献しているものにお贈りする賞です。

佐賀市民の景観やまちづくりに対する意識の向上を願い、これからの佐賀市の景観形成に対するひとつの道しるべになるように、また市民の皆さんのまちづくりへの取り組みの一端を広く紹介できるようにと、平成9年度から令和3年度にかけて実施してきました。

応募対象作品

● 「建物」や「工作物」、「樹木やみどり」、「風景・景色」など、佐賀市内にあるもので下記に該当するもの

- 個性的または魅力的な景観をつくりだしているもの
- 大切に守られてきた自然景観や自然景観とうまく調和しているもの
- 歴史的な景観を守り伝えているものや歴史的景観とうまく調和しているもの

● または、これらの景観をつくり出し、支えてきた活動

- ※ただし、次のものは除きます。
- 佐賀市が建築、所有または管理しているもの
- 文化財保護法等により指定されているもの
- 過去の景観賞受賞作品

表彰の視点

- 周辺の景観に調和し、美しいまちづくりに寄与しているもの
- デザインや技術にすぐれており、将来の崇観をリードするもの
- 総合的に計画され、美しい景観をつくり出しているもの
- 自然の要素をうまく取り入れているもの
- 歴史的な雰囲気を受け継いでいるもの
- 伝統的なデザイン、雰囲気を受け継いでいるもの
- その他この賞にふさわしいと認めるもの

銘板紹介

この銘板は、佐賀市景観賞を受賞した作品の所有者に贈られるものです。

中央の曲線は、佐賀の「S」と、シンボルであるゆったりとした水の流れを、また横のラインは、起伏の少ない佐賀平野の田園風景と有明海の干潟を表しています。

※第10回(平成18年度)までは「佐賀市都市景観賞」という名称で表彰しておりましたが、第11回(平成19年度)から「佐賀市景観賞」に名称を変更しております。

受賞作品を見学される方へ(お願い)

受賞作品を見学される際は、以下のことにご留意いただきますようお願いいたします。

- 個人宅などの場合は無断で敷地内に入らないでください。
- 受賞作品は外観に対する評価ですので、内部を見せてもらうことなどをご遠慮ください。
- 受賞作品を必要以上に触ったり、傷つけたりしないでください。
- 生垣や草木などの葉や枝を折ったりしないでください。
- 受賞作品の写真を無断でインターネット等へ掲載しないでください。

景観賞受賞作品の紹介(表彰実績)

【第1回】	平成9年度(1997)
● 副島病院	5
● 矢竹の生け垣	5
● 島薬局	6
● 竹下邸の白壁	6
● 数内写真館	7

【第2回】	平成10年度(1998)
● 井手ビル	7
● コマヤ洋品店	8
● 野中ウサイエン	8
● 道祖元町歴史的建物群(山下イソ子邸)	9
● 道祖元町歴史的建物群(山田義虎邸)	9
● 道祖元町歴史的建物群(延岡彬邸)	10
● 道祖元町歴史的建物群(竹下邸)	10
● 北島歯科医院	11

【第3回】	平成11年度(1999)
● 三浦家	11
● 柳町・南里邸	12
● 古賀邸	12
● 蓮池蒲田津(後藤邸)	13
● 蓮池蒲田津(田中酒造)	13

【第4回】	平成12年度(2000)
● 唐人町・緑のスポット	14
● 岸川整形外科	14
● 深川製磁・佐賀店	15
● (株)アルフデザイン建築事務所	15
● 開成4丁目 緑の前庭空間 (平山邸・徳永邸・渡辺邸)	16

【第5回】	平成13年度(2001)
● 野副医院	17
● 丸秀醤油本宅	17
● 佐嘉、松原神社の楠木群と松原川周辺	18

【第6回】	平成14年度(2002)
● 城内のお濠周辺	18
● 戸上電機製作所本館	19
● 西中野団地集会所	19
● 執行邸	20

【第7回】	平成15年度(2003)
● 島内呉服店	20
● 瓦町の葦葦さの民家(末次邸・原口邸)	21
● 護国神社前水遊び場周辺の清掃活動	22

【第8回】	平成16年度(2004)
● 田中邸	22
● 勝木慶造商店	23
● 石田邸	23
● 瓦町の蓮の群生	24
● 西中野団地の生垣保全活動	24

【第9回】	平成17年度(2005)
● 多布施の矢竹の生け垣	25
● 佐星醤油	25
● 中島吉平商店	26

【第10回】	平成18年度(2006)
● 内田邸	26
● 江口邸	27
● 吉島家綴通ミュージアム	27
● 岸川邸	28

【第11回】	平成19年度(2007)
● 西の谷の棚田と大串集落	28
● 野田邸	29
● 佐賀大学先端研究・教育施設	29

【第12回】	平成20年度(2008)
● 興止日女神社	30
● 東与賀大瀬・授産社翫堤防周辺	30
● 饗膳とりのい	31

【第13回】	平成21年度(2009)
● 戸ヶ里漁港の船溜まり	31
● 古賀邸	32
● 前田邸	32
● シチメンソウを育てる会の活動	33

【第14回】	平成22年度(2010)
● 本庄町溝口の矢竹の生け垣	33
● 宮崎邸	34
● 舟木邸	34
● 佐賀県林業試験場平成子ども記念の森	35

【第15回】	平成23年度(2011)
● 井手邸	35
● 中島邸	36
● 若宮社	36
● ハス再生活動	37

【第16回】	平成24年度(2012)
● 古田邸	37
● MIZ P-CSR研究所	38
● 相尾集落	38
● 久保泉町えひめあやめ保全会の活動	39

【第17回】	平成25年度(2013)
● サガ電子工業株式会社	39
● 土井邸	40
● 古川邸	40
● 三瀬老人クラブの花いっぱい活動	41

【第18回】	平成26年度(2014)
● 佐賀大学美術館・正門周辺	41
● 巨勢川調整池(東名遺跡)	42
● 兵庫北のまちづくり	42

【第19回】	平成27年度(2015)
● 市村記念体育館とその周辺	43
● 北山窯とその周辺	43
● さやのもとクリニック	44
● 千葉邸	44

【第20回】	平成28年度(2016)
● お濠とホテルニューオータニ	45
● 県道49号線から見る佐賀平野	45
● 川原食品肥前みふく庵	46
● カフェ「クロモジ」	46
● 古湯山なか紫陽花の道	47

【第21回】	平成29年度(2017)
● ぎゃらりー喫茶 樂(まどい)	47
● 森邸と庭園	48
● 花しょうぶの咲く新村川	48

【第22回】	平成30年度(2018)
● 渡辺邸	49
● ON THE ROOF	49
● JONAI SQUARE	50
● 佐賀県立博物館とその周辺	50
● 諸富花いちもんめの会の活動	51

【第23回】	令和元年度(2019)
● 梶島邸	51
● 三調家	52
● ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピア(ホテル棟)	52
● 天祐寺川探検	53

【第24回】	令和2年度(2020)
● 古賀眼科	53
● 和田集落	54
● 呉服元町ストリートマーケット-SUSIE+MOMs' Bagel+	54
● 水鏡プロジェクト	55

【第25回】	令和3年度(2021)
● 大和町の家	55
● 松尾建設株式会社本店と緑化空間	56
● 牛島橋	56
● 黄金に染まる初夏の麦畑と麦秋カフェ	57
● 蓮池公園花菖蒲再生プロジェクト	57

※作品名、作品情報、作品講評及び写真は受賞当時のものとなります。
※赤字の作品は受賞後解体され、現存しません。

【第1回】平成9年度(1997)

所在地: 大財一丁目
設計者: 手塚建築研究所
手塚 貴晴 + 手塚 由比
施工者: 鹿島建設株式会社 九州支店
松尾建設株式会社
構 造: 鉄骨造4階建
完成年: 1996年(平成8年)

現在は名称が変わっています



副島病院



【作品講評】

中心市街地の中の新設された都市計画道路(現・市道)と十間堀川に挟まれて建つこの建物は、周辺環境に対応した2つの表情をつくっています。
南側は周辺環境にマッチするように緑をふんだんに取り入れ、人にうるおいと安らぎを与える静かな明るい空間を演出しています。一方北側は、道路空間の機能を重視したつくりになっている関係で、現時点では景観的にややもの足りなさを感じますが、今後の周辺環境の整備に伴って改善されることが期待されます。
全体として、魅力ある都市景観の創出に貢献していますが、特に南側が高く評価されました。

矢竹の生け垣

【第1回】平成9年度(1997)

所在地: 鍋島町大字鍋島
管理者: 鍋島自治会のみなさん
樹 種: 鳳凰竹(ほうおうちく)
延 長: 約800メートル
樹 齢: 約600年



【作品講評】

住宅の周囲に整然と植えられた竹の生け垣は、武家屋敷の面影を今も残しており、田園地域の集落の中にあって、目に安らぎとうるおいをかもだし、美しい景観をつくりだしています。
生け垣の竹の種類は「鳳凰竹」といい、まっすぐにのびる竹は弓矢に使っていたと伝えられています。
地域の人たちが、この生け垣を先人の遺産として長い間守り続けておられる熱意と、それを維持管理されている努力はすばらしいものがあり、高く評価されました。

【第1回】平成9年度(1997)

所在地: 与賀町
構 造: 木造2階建
完成年: 1937年(昭和12年)



島薬局



【作品講評】

辻の堂の交差点にあるこの建物は、この地域の象徴的な建物になっています。また、紡績通りを南下する人にとっても、非常に印象的な建物として目に入り、個性ある都市景観を形成しています。
この建物は昭和初期の建築で、入り母屋づくり(※1)の屋根の角に円筒を入れた形は、全国的に見ても非常に珍しく、外見はほぼ当時のままで保存されています。
このように、長い間維持されてきた努力と個性ある都市景観の保全に貢献されていることが高く評価されました。

【第1回】平成9年度(1997)

所在地: 道祖元町
構 造: 木造2階建
完成年: 1880年代(明治中期)



竹下邸の白壁



【作品講評】

与賀神社の参道沿いに形成された道祖元町周辺には、歴史的な建築遺産が数多く残されていますが、明治中期に建築されたこの白壁は、時代を経た今でも、往時の面影を色濃く残しています。
歴史的な景観が徐々に失われつつある中で魅力的な歴史景観づくりに大きく貢献していることと、長い間補修を繰り返しながら維持されてきた努力が高く評価されました。

【第1回】平成9年度(1997)

所在地: 松原二丁目
構 造: 木造2階建
完成年: 1911年(明治44年)



数内写真館



【作品講評】

松原川沿いに南面して建つ明治末期の建築物で、切妻屋根(※2)と下見板張り(※3)の外壁、また車寄せ(※4)部分の屋根や窓の切妻形の庇(ベディメント)(※5)が特徴の、佐賀を代表する洋風建築のひとつです。このしゃれた感じが当時の人の目を奪ったものと思われます。

また、松原川周辺の景観ともうまく調和しており歴史的な雰囲気をかもしだしています。

外壁等は何回も塗り替えられ、手入れがよくされており、これまで維持されてきた努力が高く評価されました。

【第2回】平成10年度(1998)

所在地: 唐人二丁目
設計者: 菊田計画事務所
施工者: 小柳建設株式会社
構 造: 鉄骨造3階建
完成年: 1993年(平成5年)

現在は名称が変わっています



コマヤ洋品店



【作品講評】

佐賀駅から佐賀空港を結ぶ道路のはじまりを成す、シンボルロードの景観には花や緑が似合います。唐人町商店街にあるこの建物はセットバック(※6)させ、豊かな緑の空間をまちなみに提供するなど、道ゆく人々に安らぎをあたえています。

全体として佐賀の中心地にふさわしい雰囲気のある個性的な景観を形成している点が高く評価されました。

【第2回】平成10年度(1998)

所在地: 呉服元町
設計者: 株式会社喜多集紀建築事務所
施工者: 木蓋建築株式会社
構 造: 鉄筋コンクリート造3階建
完成年: 1998年(平成10年)



井手ビル



【作品講評】

新しい商店街として生まれ変わるために、再開発事業が進む呉服元町に建つこの建物は、レンガ造りで落ち着いた高級感を出しています。こういった都会的で、おしゃれな店がもっと増え「なんとなく歩いてみたくなる様なまちなみ」が創り出されるとよいと思います。

中心街の狭いスペースを有効に活かした、洗練されたデザインは、この地域の将来に魅力ある都市最観を形成する契機となる建物であるとして高く評価されました。

【第2回】平成10年度(1998)

所在地: 材木一丁目
構 造: 木造2階建
完成年: 1790年代【推定】



野中ウサイエン



【作品講評】

18世紀後期に建てられたこの建物は、材木一丁目にあり、個性ある景観を形成しています。江戸期の大商家「野中烏犀圓」は生薬名(※7)として、あまりにも有名です。

佐賀の風格ある屋敷構えを持つ商家の建物としては保存状態も良く、大変貴重な建物です。

歴史的な景観を今日に伝えるものとして、守り育てて来られた努力が、高く評価されました。

道祖元町歴史的建物群

【作品講評(全体)】

「海の長崎街道」の佐賀城下西の入り口として栄えた道祖元町の通りには、第1回に受賞した竹下邸の白壁をはじめ、明治期近代の上流住宅と思われる昔ながらのまちなみが保存状態も良く残っています。4つの建物を景観的にすぐれた一群とみなすことにより、周辺地域も含めて全体としてより優れた景観を形成していることが高く評価されました。



山下イソ子邸

所在地: 道祖元町
構 造: 木造2階建
完成年: 1870年代(明治初期)【推定】



【作品講評】

明治初期の建築と伝えられ、明治期特有の華やかな意匠を残す貴重な建物です。外観は、寄棟づくり(※8)の屋根をL字型に造り、妻壁(※9)を表にのぞかせ、表構えは端正で上質の建物です。

山田義虎邸

所在地: 道祖元町
構 造: 木造2階建

解体され、現存しません



【作品講評】

道祖元町一帯に屋敷を残した伊丹、深川一族が経営した地所株式会社の事務所であったと言われ、外観が本二階建ての町家型式(※10)で平入り(※11)の寄棟づくり(※8)棧瓦葺き(※12)の建物です。

延岡彬邸

所在地: 道祖元町
構 造: 木造2階建
完成年: 1887年(明治20年)

解体され、現存しません



【作品講評】

伊丹分家として明治20年5月に建てられたと記され、門と塀を巡らし、母屋は妻入り(※13)、寄棟づくり(※8)の屋根をもつ蔵づくりの町家(※10)です。建築年代と由緒が確かな明治期を代表する建物といえます。

竹下邸

所在地: 道祖元町
構 造: 木造2階建
完成年: 1880年代(明治20年頃)
【推定】



【作品講評】

元は深川家の屋敷で明治20年頃の建物とされています。屋根付板塀を巡らし、門を構え、中に寄棟づくり(※8)二階建ての母屋を持つ建物です。

【第2回】平成10年度(1998)

所在地: 長瀬町
設計者: 有限会社設計機構ワークス
施工者: 有限会社コーアイ・ビルド
構 造: 木造2階建
完成年: 1994年(平成6年)



北島歯科医院



【作品講評】

旧長崎街道沿いの長瀬町に位置するこの建物は、マンサード風(※14)の屋根に鋼板を葺き、窓を付け一見ヨーロッパ風の建物に見えます。しかし和風の手法を最大限に駆使して、現代風にアレンジする中で、旧長崎街道の歴史的景観や周辺の花寺川と緑ある景観をうまく調和させ、全体としてすぐれた景観を形成している点が高く評価されました。

【第3回】平成11年度(1999)

所在地: 柳町
施工者: サンアイホーム株式会社
佐賀営業所
構 造: 木造2階建
完成年: 江戸後期【推定】
1998年(平成10年)改築



柳町・南里邸



【作品講評】

長崎街道に面して建つこの建物は、江戸後期の建築といわれています。当時このあたりは、「上宿」とよばれ大きな商家が軒を連ねていたといわれています。
入り母屋造り(※1)の町屋(※10)で南里呉服店の発祥の地でもあり、一時柳町郵便局として使われていました。建物の東側を流れる紺屋川の石積みの護岸と一体となって、歴史的な雰囲気漂わせています。
旧古賀銀行から続く柳町の歴史的景観を考慮し、個人として街道の雰囲気を大切に修復された努力が高く評価されました。

【第3回】平成11年度(1999)

所在地: 巨勢町大字修理田
構 造: 木造2階建
完成年: 1860年代【推定】

三浦家



【作品講評】

巨勢町修理田の田園地域の中に建つこの建物は、葦葺の民家にしては悠然としてどっしりとした風格で、気品を備えています。約140年(受賞当時)の歴史があり、時代の流れを感じさせる貴重な建物でもあります。
屋根の形が独特で、生け垣や周囲の農地、自然と調和し、全体として良好な景観を呈しています。
このような民家が市内にも存在していたことの証として、高く評価されました。

【第3回】平成11年度(1999)

所在地: 中の小路
施工者: 庭美 緒方 道俊
構 造: 木造2階建
完成年: 1998年(平成10年)

古賀邸



【作品講評】

護国神社の道向かいに位置するこの邸宅は、大きな道路に面した前庭空間をうまく利用し、通りに豊かな緑を提供し、四季の変化が感じられるように配慮するとともに、夜の演出も考えて作られています。
手入れも行き届いており、歳を重ねるごとに景観的な魅力を増していくことが期待されます。
個人の邸宅としては、景観に配慮した理想的な作品として高く評価されました。

【第3回】平成11年度(1999)

所在地: 蓮池町大字小松
構 造: 木造2階建
完成年: 1860年代【推定】

蓮池蒲田津(後藤邸)



【作品講評】

後藤家は約140年(受賞当時)の歴史ある建物ということです。
「蒲田津」の船着き場の前に位置し、戦前より肥料などを扱う大きな商家であったということです。
母屋とそれに続く蔵が今日も残っていますが、個人として当時の面影を残すように修復をされ、まちなみの継承に努力されているすぐれた建物です。

【第3回】平成11年度(1999)

所在地: 蓮池町大字小松
構 造: 木造2階建
完成年: 1640年代

解体され、現存しません

蓮池蒲田津(田中酒造)



【作品講評】

田中家は1640年代に蓮池藩が成立する頃建てられた歴史を持っています。
ここで造られる酒は鍋島蓮池藩を芙蓉家と称したことから、「芙蓉」という酒名で市民の皆様に親しまれています。
どっしりとした蔵造りで、周囲を取り巻く酒蔵や工場と一体となって通りに落ち着いた雰囲気をかもし出しています。
この家は代々の当主が、その時代に応じて改造を重ねて、今日の姿になったといわれています。

【第4回】平成12年度(2000)

所在地: 唐人一丁目
完成年: 1996年(平成8年)



唐人町・緑のスポット



【作品講評】

シンボルロードの唐人町商店街にあるこの空間は、複数の建物をあわせて道路より後退させ、沿道沿いの歩道部分に樹木を配置して安らぎとゆとりを演出しています。
現代的でおしゃれな商店の中に、鏡円寺の門がはさみ込まれて「歴史」が顔をのぞかせ、植栽された緑もまちなみに四季のいろどりを添えています。
現在と過去、それに自然が一体となって、新しい緑のスポット空間を創り出していることが評価されました。

【第4回】平成12年度(2000)

所在地: 本庄町大字本庄
設計者: 田中俊彰設計室
施工者: 松尾建設株式会社
構 造: 鉄骨造3階建
完成年: 1999年(平成11年)



岸川整形外科



【作品講評】

元佐賀球場の南側、通称本庄宮通りに新しく建てられたこの建物は、大きなガラス面の採用や細部まで工夫された軽快なデザインで、全体的に美しいプロポーションに仕上げられています。建物の前面には芝生ブロックや植栽により明快に歩車道を分離した駐車スペースが広がり、ゆったりとした豊かな空間を形成しています。
個性的で魅力的な建物が通りから見えにくいことが残念ですが、緑の空間と透明感のある建物とが一体となり、明るく、気持ちのよい景観が評価されました。

【第4回】平成12年度(2000)

所在地: 松原三丁目
構 造: 木造2階建

深川製磁・佐賀店



【作品講評】

佐嘉神社の東角に建つこの建物は、有田の代表的な製磁会社の営業所として約110年(受賞当時)の歴史をもっています。呉服元町アーケードの玄関口としての役割をも果たし、長く市民に親しまれつづけています。このあたりに比較的多く残っていた古い建物も、次々と姿を消していき、往時を伝える風景を見つけるのも難しくなりました。そのような中、当時の建物の様子を極力残し、街のランドマークとしての役割を継続されている努力が高く評価されました。



(株)アルフデザイン建築事務所

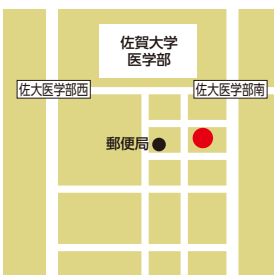
【第4回】平成12年度(2000)

所在地: 鍋島三丁目
設計者: 株式会社アルフデザイン 建築事務所
施工者: 九州建設株式会社 佐賀営業所 鎮西建設株式会社
構 造: 鉄筋コンクリート造3階建
完成年: 1999年(平成11年)



【作品講評】

区画整理事業によって、新しい街づくりが進むこの医大周辺の地区には、斬新なデザインの建物も多くできています。その中で、コンクリートの打放し(素地仕上げ)、ガラス、アルミなどの素材を用いながら簡潔ですっきりとした都市的デザインとプロポーションを成しており、新しいまちづくり、景観形成の先駆的な役割を果たす建物であることが評価されました。



【第4回】平成12年度(2000)

所在地: 開成四丁目
施工者: 庭美 緒方 道俊
完成年: 1998~2000年
(平成10~12年)

開成4丁目 緑の前庭空間(平山邸・徳永邸・渡辺邸)



【作品講評】

県の開発による住宅地ですが、3軒の家がそろって道路より後退することで、より豊かなオープンスペースを確保し、沿道の緑化などにより、道行く人が楽しめるやわらかい街路空間を演出しています。背景をなす建築デザインにも共通の工夫を取り入れれば、すばらしいまちなみに発展するものと思われます。これからの住宅地における新しい外部空間の方向性を住民自らが共同で模索したものとして、評価されました。



【第5回】平成13年度(2001)

所在地: 蓮池町大字蓮池
構 造: 木造2階建
完成年: 1917年(大正6年)頃

解体され、現存しません

野副医院



【作品講評】

蓮池公園の西側に建つこの建物は、大正6年頃に建設されたといわれ、地域に愛される病院として、今(受賞当時)も現役で使われ続けています。市内でも数少なくなった貴重な近代洋風建築物の一つで、下見板張り(※3)の外壁や上げ下げ窓、簡素化した西洋風の意匠によるポーチなど、当時の技術や技法によって洋風の趣をつくりだしています。周辺の閑静な集落の中にたたずむすっきりした姿や、ブロック塀を越えて大きく成長した前庭の木々は、いずれも愛情を持って維持管理されてきた賜物です。その地道な努力が優れた佐賀の景観に結実しました。

【第5回】平成13年度(2001)

所 在 地: 松原二丁目
大楠の年齢: 約600年



佐嘉、松原神社の楠木群と松原川周辺



【作品講評】

市街地の中心に位置する佐嘉神社、松原神社の境内には、樹齢が600年に達するものを含め、約60本の楠木が濃い緑のシルエットを落としています。この近辺は両神社の祭礼時はもとより、日々の散策の場としても古くから市民に親しまれてきました。特に松原川沿いは、楠木やもみじが水面に映え、鯉や鳥が遊ぶ趣のある場所であり、水網都市佐賀を象徴する水辺空間となっています。長い間の保護と育成が作りだした楠木群は、松原川の河川整備とあいまって、潤いのあるまちなかの自然景観を市民に提供しています。

【第5回】平成13年度(2001)

所在地: 伊勢町
構 造: 木造2階建
完成年: 江戸末期

丸秀醤油本宅



【作品講評】

この建物は長崎街道沿いの旧「伊勢屋本町」に建ち、もともと江戸末期に遡るといわれる大型の町屋(※10)です。昭和4年に、嘉瀬扇町にあった秀島商店(現・丸秀醤油株式会社)が工場を移転し、この地で昭和53年まで約50年の間営業を続けました。現在は専用住宅として使われており、現行の建設材料を用いた改修を加えながらも、当時の建物や形を生かし、その雰囲気伝える工夫がなされています。持ち主の見識と努力で実現したこうした試みは、長崎街道の雰囲気を守り、次の世代に伝えていく一つの可能性を示すものとして評価されました。



【第6回】平成14年度(2002)

所在地: 城内一丁目、二丁目

城内のお濠周辺



【作品講評】

鍋島36万石の居城であった佐賀城のお濠は、今もかつての面影を残しています。お濠の水面には空の青が映え、その周辺には、春は桜、夏は蓮、また一年を通してクスノキの緑が、見る者の目を楽しませてくれます。自然と触れ合う場、癒しの場として、佐賀市民ばかりでなく、県民や県外からの観光客のオアシスにもなっており、まさに「佐賀のシンボル」と呼ぶにふさわしい景観をつくりだしています。歴史あるお濠と豊かな自然が調和していることや、市民をはじめ多くのひとの憩いの場となっていることが評価されました。



【第6回】平成14年度(2002)

所在地:大財北町
構造:木造3階建(外壁タイル張り)
完成年(改修):1933~1938年
(昭和8~13年)



戸上電機製作所本館



【作品講評】

佐賀市内に明治、大正、昭和初期の建築物が少なくなっているなか、建築当時の面影をとどめた貴重な近代洋風建築物です。構造は当時としては珍しい木造の3階建てで、外壁はタイル張りとなっています。丁寧に維持管理され保存状態が良好な外壁は、建物自体がレンガ造であるかのような重厚な雰囲気をかもし出しています。

建物が通りから見づらいことが残念ですが、いままで維持されてきた持ち主の努力の結果が、当時の雰囲気や歴史を感じさせてくれます。

【第6回】平成14年度(2002)

所在地:高木瀬東四丁目
設計者:建築設計宙工房
施工者:《建築》福田建設株式会社
《造園》株式会社久保造園
構造:木造2階建
完成年:2002年(平成14年)



執行邸



【作品講評】

新たに開発された住宅地は、どこもあまり変化がない景観となっていますが、この住宅は市場に流通する一般的な材料と工法によりながらも、持ち主の意思をあらわした個性的な表情を生み出しています。ファサード(※15)中央にアクセントとして突き出た煙突なども、室内で繰り広げられる楽しい生活を想像させてくれます。樹木が生長し、庭の整備が進めば、さらに魅力を増していくことでしょう。

画一的な住宅地形成に一石を投じ、豊かな住まいの景観をつくりだしていく一つの可能性を示しています。

【第6回】平成14年度(2002)

所在地:兵庫南二丁目
設計者:尚建築設計アトリエ
施工者:《建築》岩永建設
《造園》有限会社田中庭樹園
構造:木造平屋建
完成年:1992年(平成4年)



西中野団地集会所



【作品講評】

西中野団地は佐賀県住宅供給公社による分譲住宅地で、各戸が道路から後退して生垣を設けるなど、良好な居住環境を形成するように配慮されています。その緑のまちなみの一部を形成する和風の趣を持ったこの集会所は、入口から広場、さらに奥の通りにまで続く開放的な構成をとり、住宅地の中での子供たちの遊び場としての役割も果たしています。

10年を経て建設時の樹木も根付き、周囲に溶け込んだ落ち着いたたたずまいが、優れた住環境の形成に貢献しています。

【第7回】平成15年度(2003)

所在地:松原一丁目
設計者:スピノフ有限公司
施工者:栗原工業株式会社
構造:鉄筋コンクリート造3階建
完成年:2002年(平成14年)



島内呉服店



【作品講評】

この店舗併用住宅は、佐賀市中心部の松原川沿いに建ち、整備された水際という有利な立地条件を十二分に活かしました。川に面する敷地側に通行スペースを設けて、川の風景を多彩に取り込み、逆に、建物自体のデザインも松原川を強く意識し、その景観形成に昼夜それぞれの表情をもって貢献しています。佐賀の景観の魅力の一つは、網の目のように広がる掘割り(クレーク)との関わりから生み出されます。

松原川との新たな関係を提示したこの建物は、これからの佐賀市の都市景観形成に豊かな可能性を拓くものとして評価されました。

【第7回】平成15年度(2003)

瓦町の葦葺きの民家

【作品講評(全体)】

兵庫町瓦町には、昔ながらの「くど造り(※16)」の民家が点在しています。その中から、現在も屋根に葦を葺き、昔と変わらぬ姿を保つ努力を続けておられる末次邸と原口邸が受賞されました。

急速な都市化によって農村の風景が失われていく中で、葦葺き屋根を持つくど造りの民家の存在は、佐賀市の都市景観にとって貴重な存在です。

末次邸、原口邸はともに周囲を田園に囲まれ、その風景の中に違和感なく溶け込む姿は、佐賀の懐かしい田園風景を私たちに思い起こさせてくれます。この貴重な景観を次世代に引き継いでいきたいものです。

末次邸

所在地: 兵庫町大字瓦町
施工者: 中尾 初(葦葺き)
構 造: 木造2階建

解体され、現存しません



原口邸

所在地: 兵庫町大字瓦町
施工者: 中尾 初(葦葺き)
構 造: 木造2階建

解体され、現存しません



【第7回】平成15年度(2003)

所在地: 川原町
活動団体: 勤興校区子供クラブ
日新校区子供クラブ
佐賀若楠ライオンズクラブ



護国神社前水遊び場周辺の清掃活動



【作品講評】

毎年夏に開設される護国神社前の遊泳場は、まちなかに子どもたちの水遊び場を提供する貴重な空間です。そこで遊ぶ子どもたちの姿は、佐賀の夏の風物詩となっています。

1985年から毎年続けられてきたこの清掃活動は、水遊び場を安全に提供するために行われています。大人と子どもが一緒になって作り上げる水舞台は、夏の強い日差しに子どもたちのシルエットが躍動するとき、まさに佐賀固有の都市景観に変わります。幼心にふるさとの風景を刻んできたこの取組みが、佐賀市の都市景観の創造や維持に貢献した活動に贈られる「佐賀市都市景観賞特別表彰」の第1号となりました。

【第8回】平成16年度(2004)

所在地: 鍋島町大字蛸久
構 造: 木造2階建
完成年: 1819年(文政2年)頃(注)



田中邸



【作品講評】

鍋島の蛸久天満宮沿いに位置するこの建物は、天保四年頃(注)に建築され、その後の増築などにより現在の形になったと言われています。元々は造り酒屋を営まれていましたが、現在は専用住宅として使われています。建物の状態もよく、持ち主が大切に使われながら維持されていることがうかがえます。

また、南側にある天満宮の鳥居からの視界は風情のある趣を呈し、参道沿いという特殊な場所性と建物の間に違和感がありません。このように、まちなみ景観に貢献していることが高く評価されました。

(注) 令和4年に完成年が1819年(文政2年)頃であることを証する文献が発見されました。

【第8回】平成16年度(2004)

所在地: 材木二丁目
構 造: 木造2階建
完成年: 18世紀中期【推定】



勝木慶造商店



【作品講評】

江戸時代、材木町は職人のまちとしてにぎわっていたといわれています。その中であって当時のおもかげを色濃く残すこの建物は、18世紀中期の建築と推定される蔵づくりの町屋(※10)です。材木町の中ほどの角地という要所に、存在感のあるたたずまいを見せています。

まちの景観としてこの建物を見た場合、前面道路や周辺の水路とのスケール感やバランスが良く、角地にあるという場所の特性に今も十分に応えているとして評価されました。材木町のまちなみ景観に欠かすことのできない存在です。

【第8回】平成16年度(2004)

所在地: 兵庫町大字瓦町
管理者: 瓦町のみなさん



瓦町の蓮の群生



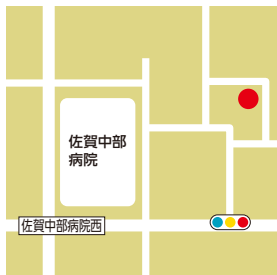
【作品講評】

瓦町の蓮の群生は、第7回都市景観賞を受賞した「瓦町の葦葦きの民家」のひとつ原口邸の北側に広がっています。その葦葦きの屋根のシルエットとあいまって、クレークが多い佐賀の田園地域らしい景観をつくりだしています。

クレークは地元の方が管理しておられ、農作業の一環として水草や雑草の除去を行う中で、この蓮の群生は大切にまもられてきました。このような貴重な自然、風景を後世に残していってほしいという願いをこめて、受賞となりました。

【第8回】平成16年度(2004)

所在地: 兵庫南三丁目
設計者: 木本 功次郎+K's Gallery
施工者: 有限会社宝生住宅
構 造: 木造2階建
完成年: 2004年(平成16年)



石田邸



【作品講評】

佐賀県住宅供給公社が分譲した住宅地の中であって、簡潔なデザインと色で目を引く近代的な建物です。住宅の下の一部を駐車スペースとして開放することで圧迫感を和らげ、また垂直に立つ道路側の壁面には木材を使用して柔らかな表情をつくり出しています。

前面道路からの視界は、駐車スペースを抜け、庭に芝生の緑を経てさらに奥の隣地の立木へと続きます。個人の住まいでありながら、道行く人にも新鮮な景観を提供している努力が評価されました。

【第8回】平成16年度(2004)

所 在 地: 兵庫南二丁目
活動団体: 西中野団地自治会のみなさん



西中野団地の生垣保全活動



【作品講評】

良好な居住環境の要素のひとつに、豊かな緑があげられます。緑によって良好な居住環境を形成するには、ある程度まとまった戸数の住宅が一緒になって植栽を行い、また樹木の維持管理を続けることが大切です。

この西中野団地では、各戸が道路から後退して生垣を設けるなど、良好な居住環境を形成するように配慮されており、また生垣の剪定や消毒を行う時は、自治会で事前に希望を取り、一括して委託するなど独自の取り組みがなされています。

この緑の生垣を保ち続けておられる努力が評価され、都市景観賞特別表彰として選考されました。今後も現状の生垣保全活動が継続し、市内の他の住宅地へも広がっていくことを期待したいと思います。

【第9回】平成17年度(2005)

所在地: 多布施四丁目付近
管理者: 上多布施中部自治会のみなさん



多布施の矢竹の生け垣



【作品講評】

矢竹の生け垣は、かつて「多布施小路」と呼ばれていた道に沿って連なり、周辺の小道とともに落ち着いた居住景観を作り出しています。地元には、第1回都市景観賞を受賞した鍋島町本村の「矢竹の生け垣」とのつながりも伝えられています。

矢竹は夏になると一晩で約7cmも延びることもあるため、その維持管理にはたいそう手間がかかります。中心部に程近いこの場所に約200m余も連続するこの生け垣は、景観上きわめて貴重であり、加えて地区住民のみなさんの維持への努力も評価されました。

【第9回】平成17年度(2005)

所在地: 材木二丁目
構造: 木造2階建
完成年: 19世紀前期【推定】



中島吉平商店



【作品講評】

江戸時代に職人の町としてにぎわっていた材木町の中程にあるこの建物は、座敷の意匠から19世紀前期の建築と推定される土蔵造り漆喰仕上げ(※19・※20)の町家建築(※10)です。昔から「中島ゲタ屋」として親しまれており、広い屋敷の南北両側にある土蔵が当時の繁栄を今に伝えています。

材木町の歴史的まちなみに欠かせない建物の一つであり、景観を守るための努力も評価されました。

【第9回】平成17年度(2005)

所在地: 唐人一丁目
構造: 《事務所》木造モルタル2階建
《居宅》木造2階建
完成年: 1931年(昭和6年)頃



佐星醤油



【作品講評】

唐人町にあるこの建物は昭和6年ごろに建築されています。出入口横の曲線を活かした大きなガラス窓建具や庇持送り(※17)の装飾はアールデコ様式(※18)を想起させ、地方都市における昭和初期の洋風モダンの導入を示しています。

唐人町の街角という重要な場所に位置し、過去も現在も町のランドマークとしての役割を果たし続けていることが評価されました。

【第10回】平成18年度(2006)

所在地: 大和町大字久池井
構造: 木造2階建
完成年: 1904年(明治37年)頃

内田邸



【作品講評】

大和町久池井にあるこの建物は、県道佐賀外環状線の南側に北面して建っています。主屋は明治37年頃の建築で、道路に面する部分には白壁と格子の建具が使われています。敷地内には蔵が2つ建っており、主屋よりも古いといわれていますが、棟札等は見つかっておらず、建築年代は不明です。建物の西側には築地塀風(※21)の、長い屋根を載せた塀も連なります。

主屋と蔵の連続、白壁、格子、塀等が一体となって、重厚な居住景観を作り出しています。

【第10回】平成18年度(2006)

所在地: 諸富町大字為重
構 造: 木造2階建
完成年: 18世紀後期



江口邸



【作品講評】

諸富町の田園地帯にあるこの家は18世紀後期の建築で、かつては佐賀平野を中心に数多く見られた「くど造り(※16)」の民家です。佐賀市の中心部を離れた所でも都市化が進み、古い建物が次々と壊されています。そうした中、江口邸は数少なくなった歴史的建物の一つといえます。

茅葺き屋根が周りの樹木とあいまって、昔懐かしい佐賀の田園風景を今に伝えています。

【第10回】平成18年度(2006)

所在地: 水ヶ江三丁目
構 造: 木造平屋建
完成年: 19世紀中期



岸川邸



【作品講評】

岸川邸は南堀端から東に延びる水ヶ江横小路の南側に北面して建っています。主屋は茅葺き寄棟造り(※8)で三方に棟が折れ、正面の棟には式台(※22)玄関がついて武家屋敷であったことを伝えます。現在の間取りは改造も少なく、全体的に旧状を良く伝えています。

この岸川邸の周辺には昔、武家屋敷が立ち並んでいたといえます。しかし、現在は周りにマンションなどのビルが立ち並び、この近くにかつての面影を忍ばせる建物はほとんど残っていません。この一帯が武家地であったという記憶はこの建物に頼るしかなくなっています。

【第10回】平成18年度(2006)

所在地: 赤松町
設計者: 中村亨一設計室有限会社
施工者: 株式会社組工務店
構 造: 木造2階建
完成年: 2006年(平成18年)



吉島家緞通ミュージアム



【作品講評】

平成18年に完成したこの建物は赤松町の西堀端にあります。お濠側には、道路に面して空地を設け、植栽を施しています。建物は木造の勾配屋根とし、屋根は深いグリーングレー、外壁は砂壁色の落ち着いた色彩を用いています。

旧佐賀城内の内濠周辺という重要な場所にあって、周りの景観に溶け込んだ現代風のデザインが評価されました。

【第11回】平成19年度(2007)

所在地: 富士町大字大串
管理者: 大串区自治会のみなさん



西の谷の棚田と大串集落



【作品講評】

西の谷の棚田は、亀岳(標高740m)の麓にあり、53戸の大集落からなる大串集落の中の一部に位置しています。佐賀らしい緩斜面の独特な棚田であり、大串川の中流に沿って広がっています。棚田周辺には杉林や雑木林があり、春はレンゲ草、夏はひまわり、秋はコスモスや彼岸花と四季折々の表情を見せ、地域住民に自然の恵みと安らぎを与えています。大佐古山の集落側には、大串の「大」の字を花木で表しており、特に冬の雪景色の頃には「大」の字がくっきりと浮かび上がり、ひときわ美しい表情を見せてくれます。

今日(受賞当時)まで18年間、中山間地域の活性化を図るため、毎年4月、ふうそう(レンゲ草)の咲く季節に「ふうそう祭り」を行っています。この祭りは、西の谷の棚田の散策、山菜狩り、餅つきをしたり山菜の料理を囲んで楽しく過ごすなど、地域住民と都市住民との交流を深めています。また、棚田米の田植えと収穫の交流なども行っています。その他にも、集落単位で森林の間伐や草刈りなど行っており、中山間地域の自然環境保全、景観保全に寄与しています。

棚田と集落が一体となって、のどかな田園風景を形成し、これからも存続していくことを期待し、選考となりました。

【第11回】平成19年度(2007)

所在地: 蓮池町大字蓮池
構 造: 木造2階建
完成年: 1929年(昭和4年)

解体され、現存しません

野田邸



【作品講評】

蓮池町蓮池にあるこの建物は、北側がクリークに面して建っています。このクリークに面して石積みを巡らされ、今では珍しい水汲み場が残っています。昭和4年以前にあった借家の住人が、この水汲み場を利用していたとのことでした。昔は、養蜂で花を求め各地を移動したり、板ガラスの製造・販売をしていたこともありました。

庭には様々な樹木が植えてあり、手入れも行き届いており、所有者の愛情を感じることができます。北側のブロック塀が残念ですが、屋根の造りが複雑で、赤レンガの壁が特徴的な建物となっています。建物の保存もよく、佐賀の特徴であるクリークとよく調和しているところが評価されました。

【第11回】平成19年度(2007)

所在地: 与賀町
設計者: ディーフォーエム一級建築事務所
施工者: 株式会社中野建設
構 造: 鉄骨造平屋建
完成年: 2006年(平成18年)

現在は名称が変わっています



佐賀大学先端研究・教育施設



【作品講評】

与賀町にあるこの建物は、大きな敷地を利用して建っています。建物の色は黒をベースにしており、黒い色は同じ大きさの白い色の物に比べ、1.8倍重く感じるといわれるように、この建物には重量感があります。もともと黒い色は、重量感があることから、最上の格式を表す色として古来から女性の黒留袖などに使われており、この建物の外観は、研究・教育の場としての格式を表すため、黒い外観にしています。また、建物をL字型に配置することで、コーナー部分に建物に囲まれた中庭空間が生まれ、それに面して全面ガラスを設けたロビー空間を創り出しました。このロビー空間は、抑えられたモノトーンの色調により、静かに落ち着いて思索できる場となるように設計されています。敷地内に緑を取り入れるともっとと良くなりますが、建物の収まりがよく、工夫して設計しているところが評価されました。

【第12回】平成20年度(2008)

所在地: 大和町大字川上
構 造: 木造平屋建
完成年: 創建564年(欽明天皇25年)
【推定】
再建1816年(文化13年)



與止日女神社



【作品講評】

與止日女神社は川上峡のほとりにあり、海の神、川の神、水の神として信仰され、川上川の守護神である與止日女大明神を祀る神社です。地元では「よどひめさん」と呼ばれ親しまれており、憩いの場としても利用されています。

神社と周辺の楠をはじめとした樹木との調和がすばらしく、特に対岸(国道263号線)から見る神社は、川上峡の水面にその姿を映し、非常に美しい景観をつくりだしています。春は桜、夏は楠、秋には紅葉が美しく、年間を通して私達の目を楽しませてくれます。

【第12回】平成20年度(2008)

所在地: 東与賀町

大掬

堤防建築年: 1868年(明治元年)
～1871年(明治4年)
堤 防 延 長: 1,425m
干拓地規模: 80ha

授産社掬

堤防建築年: 1887年(明治20年)
～不明
堤 防 延 長: 1,325m
干拓地規模: 57.1ha



東与賀大掬・授産社掬堤防周辺



【作品講評】

有明海沿岸は古くから干拓が行われてきており、東与賀町はほぼ全体が干拓地です。第2線堤と呼ばれる大掬・授産社掬堤防は、明治期前半に造られたものであり、当時の有明海沿岸の干拓堤防としては最大規模であるといわれています。有明海という自然の脅威にさらされながら造ってきた堤防及び干拓地は、地域住民の誇りであり、また、佐賀の歴史を物語る歴史的遺産として、後世に残すべき貴重な財産でもあります。

現在も、この堤防上部は道路として利用されています。有明海側から見ると、広い田園地帯や背景の山々と石積みの堤防がとけ込み、その一体感が非常に美しく、高く評価されました。

【第12回】平成20年度(2008)

所在地: 呉服元町
設計・施工者: 有限会社スタイリング
構造: 木造平屋建
完成年: 2007年(平成19年)



饗膳とりい



【作品講評】

呉服元町にあるこの建物は、間口が狭く奥行きのある敷地をうまく利用して建てられています。店舗はかなりセットバック(壁面後退)(※6)しており、アーケード内にある他の店舗とは違うスタイルをつくり上げています。店舗入口までのアプローチは、植栽を意識してつくり、広告物を極力なくすることですっきりとしたセンスの良い外観を形成しています。

個性的なデザインが、魅力ある景観を形成する契機となる建物であるとして高く評価され、また、空洞化が進む中心街において、今後の活気に結びつくことが期待される建物であるとして選考となりました。

【第13回】平成21年度(2009)

所在地: 川副町大字犬井道
管理者: 佐賀県有明海漁業協同組合



戸ヶ里漁港の船溜まり



【作品講評】

川副町の早津江川と筑後川に跨っている戸ヶ里漁港は、4つの地区に分かれており、今回受賞したのは、有明海河口に最も近い早津江川右岸に位置する戸ヶ里地区の船溜まりです。市内でも最も多くの船が停泊する広い港で、スケールが大きく開放的な景観を創り出しています。

船溜まりは、有明海の河口近くにあるため、潮の干満によりその景観が一変し、天候や時間、季節の変化と相まってさまざまな表情を私たちに見せてくれます。干潮の際は、有明海の干潟や船に渡る栈橋が顔を出し、いかにも有明海の漁港らしい姿を現します。晴天の満潮時には、きらきら光る水面と漁船、背景に続く山々が調和した絵画的な景観が広がります。

刻々と表情を変え続ける自然と、漁業という人の営みとが一体となって創り出される景観が高く評価され、有明干潟を代表する漁港景観の一つとして選考されました。

【第13回】平成21年度(2009)

所在地: 久保田町大字久富
構造: 木造平屋建
完成年: 明治末期(聞き取り)



古賀邸



【作品講評】

久保田町の南部田園地帯にある古賀邸は、かつて佐賀平野を中心に多く見られた「葦葺きクド造り(※16)」の民家です。周囲にはほかにもクド造りの民家がみられますが、葦葺きを今日まで維持してきたのはこの古賀邸だけで、集落の中にあって特に落ちついた佇まいを見せています。

築100年以上の歴史を誇る古賀邸は、建築時の当主から数えて現在の所有者が3代目(受賞当時)にあたります。建物が経てきた長大な時間にかかわらず、柱や梁などの基本的な躯体や家屋の間取りは当時のままの姿を残しており、手入れの行き届いた家屋や庭からは、歴代所有者の住まいに対する変わらぬ愛情を感じることができます。管理の難しい葦葺きの家屋を長年にわたり良好な状態で維持してきた努力が、佐賀らしい歴史的景観の形成に寄与しているとして高い評価を受けました。

【第13回】平成21年度(2009)

所在地: 久保泉町大字上和泉
構造: 木造2階建
完成年: 昭和初期【聞き取り】



前田邸



【作品講評】

久保泉町の前田邸は、戦前までこの地域の地主であったことから、敷地の広さや建物の大きさに、当時の隆盛の記憶を感じることができます。前面道路に塀を回し、小水路に掛かる小橋を渡って訪問客を誘う導入部は、「家」というよりも「屋敷」という語感がしっくりくる「構え」を見せています。

家屋や塀は昭和初期に建築され、外壁には白漆喰(※20)ではなく、当時「粋」とされた黒漆喰が使用され、現在も塀や壁に残る黒い漆喰が、集落の中にあって一際目を惹きます。屋敷導入部の小橋、塀、植え込み、中庭、居住区などの配置が特徴的で、周囲の水路と石積みなども含めてセットで当時の姿が残されていることが、当地区の歴史を物語る貴重な景観として高い評価を受けました。

【第13回】平成21年度(2009)

所在地: 東与賀町
活動団体: シチメンソウを育てる会
見頃(紅葉): 10月下旬～11月初旬



シチメンソウを育てる会の活動



【作品講評】

シチメンソウは、九州北部、朝鮮半島、中国の一部の沿岸にしか生息しない珍しい塩生植物です。特に環境の変化に弱く、その希少性から絶滅危惧種に指定されていますが、春はピンク、夏は緑、秋には紅に染まるその姿は、有明海の四季を感じさせる東与賀海岸を代表する風物として広く定着しています。『シチメンソウを育てる会』は、昭和62年の第38回全国植樹祭開催の際、昭和天皇が当地区にもお立ち寄りになり、特にシチメンソウを興味深く御覧になられたことをきっかけに、東与賀のシチメンソウを町の宝物として後世に伝えようと、5、6人の有志から始まり、現在(受賞当時)では30人を数えるボランティア団体です。会のメンバーは、東与賀の海岸堤防が現在のようなきれいな姿に整備される以前から、葦の中に細々と生きているシチメンソウを守ろうと、海岸に押し寄せるゴミを清掃し、極寒の中の種取りや種蒔といった地道な作業を続けてこられました。また、地元の小学生による海岸スケッチ大会やシチメンソウ祭などを催し、シチメンソウを町民の共有財産として次世代に伝えるための啓発活動や町興しにつながる活動を展開してきました。当会の活動がきっかけとなり、現在では多くの民間団体やボランティア団体が東与賀海岸の清掃活動を実施するようになり、シチメンソウヤードや干潟公園が整備され、シチメンソウが紅葉する季節には、多くの観光客が訪れる観光スポットとして高い人気を誇るようになりました。

【第14回】平成22年度(2010)

所在地: 本庄町大字本庄
管理者: 溝口自治会のみなさん



本庄町溝口の矢竹の生け垣



【作品講評】

今回受賞した矢竹の生け垣は、本庄町溝口にあります。周防殿橋(通称:スットントンバシ)を起点に静元寺(じょうげんじ)の敷地北側から溝口公民館付近まで続いており、その長さは200m以上になります。特に静元寺の東入口付近から南の方は、狭くて蛇行している道の両側にありユニークな空間をつくり出しています。小学生の通学路にもなっているこの道は、歩いていて癒しを感じる場所でもあります。毎年お盆とお正月を迎える前の時期に―斉に生け垣の手入れが行われます。その手入れが終わった後は所有者同士の親睦会をすることも慣例となっています。このように、連続した矢竹の生け垣はこの地区のコミュニティを象徴しており、地元の方々に大切に守られていることが評価されました。

【第14回】平成22年度(2010)

所在地: 久保町大字川久保
構造: 木造2階建
完成年: 1950年(昭和25年)【聞き取り】



宮崎邸



【作品講評】

宮崎邸は、久保町川久保と神埼市との境界付近に建つ純和風の住宅で、周りには竹林、柿の木、紫陽花などの草木がバランスよく配置されています。所有者(受賞当時)の宮崎惣助氏は、北原白秋、若山牧水と並び九州三大歌人と称される久保町出身の中島哀浪の愛弟子であり、哀浪はこの家の様子を「惣助の 家は竹林に 囲まれて 雨の降る日は いよいよすけき」と詠みました。この詩にも出てくる竹林は程よい塊となって遠くからも良く見え、地域のシンボリック的存在となっています。田園の中に独立して建つ住宅は、得てして殺風景で違和感のあるものとなりがちです。しかし、この宮崎邸は外構に自然素材をふんだんに使用し、周囲の景観に配慮しながら個性的な田園風景をつくり出しています。所有者は住まい方を楽しんでおられるようで、美意識・遊び心も垣間見え、何よりも管理に対する高い意識が感じられます。

【第14回】平成22年度(2010)

所在地: 赤松町
構造: 木造2階建
完成年: 1916年(大正5年)

舟木邸



【作品講評】

赤松町にある舟木邸は、大正から昭和初期にかけて佐賀県を中心に建築活動を展開し、柳町にある旧古賀銀行の増築工事の設計・施工を行った舟木右馬之助氏の自邸で、舟木氏により設計・施工された大正時代の建物です。「佐賀高等学校水泳部史」には、大正12年に舟木氏が手掛けた九州初となる大水泳場の建設の際、数度にわたる設計変更を依頼したにもかかわらず、その都度舟木氏は無理な要求を心よく聞き入れたことが記されています。ある時は既に出来上がったものを壊してまでやり直したことに對し、「採算を度外した犠牲的精神に今更のように頭の下がる思いがする」と敬意を表しています。舟木邸の端正なたたずまいは、このような舟木氏の生き方を印象付けるものです。周辺の古い建物がどんどん壊されていく中、舟木邸は昔から変わらない門とともに西瀬端の昔の記憶を今に伝える貴重な存在です。

【第14回】平成22年度(2010)

所在地: 大和町大字池上
 管理者: 佐賀県
 完成年: 2003年(平成15年)

佐賀県林業試験場平成子ども記念の森



【作品講評】

平成子ども記念の森は、皇太子ご夫妻の長女愛子さまのご誕生を記念し、大和町大字池上の佐賀県林業試験場に隣接して作られています。

敷地内には約300種類の大小さまざまな樹木が植えられており、まっすぐに延びたメインストリートとともに魅力ある空間をつくり出しています。また、平地の中にある樹林地として四季折々の彩り豊かな景色をつくり出す貴重な場所となっています。

トトロの森を連想させるこの森は、その名のとおり次代を担う子どもたちの体験学習の場として、今後の利用が大いに期待される施設でもあります。



35

【第15回】平成23年度(2011)

所在地: 八戸二丁目
 設計・施工者: 有限会社夢木香
 構造: 木造2階建
 完成年(改修): 2009年(平成21年)

井手邸



【作品講評】

井手邸は、長崎街道の西構口付近に北面して建っています。

塗籠造り(※23)の町家建築(※10)であり、呉服屋を営んでいっしょだった当時の外観をほとんど残されています。歴史的建造物は、「暗い、寒い、使いづらい」ということを理由に解体をされるケースがありますが、井手邸はそのような問題点を見事に解消されているということで、これからの歴史的建造物の保存・活用のモデルケースとしても期待ができます。所有者の建物への愛情と地域のためにも残していきたいという熱意が表れています。



【第15回】平成23年度(2011)

所在地: 大和町大字池上
 設計・施工者: 株式会社エースホーム
 構造: 木造2階建
 完成年: 2004年(平成16年)

中島邸



【作品講評】

中島邸は、大和町池上にある大屋根の農家住宅で、西道路に接する細長い敷地に建っています。

その敷地形状を最大限に活かし、ほぼ中心に主屋、南側に機械小屋、北側にはオープンスペースと従来の農家住宅にはみられない配置になっています。

また、主屋を囲む植栽、特に表側、玄関側の外構を植栽によってデザインしていることが住宅の魅力をさらに引き立てています。

作業小屋、機械小屋、オープンスペース、ハウスなど、農業に関わる施設を敷地内に配置しながら、外観にも配慮した家づくりになっており、現代農家の生産活動・生活にフィットした空間配置や動線の工夫をしていることが評価されました。



【第15回】平成23年度(2011)

所在地: 鍋島町大字八戸溝
 管理者: 西八田若宮社のみなさん

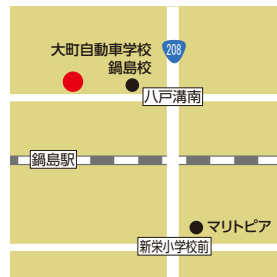
若宮社



【作品講評】

若宮社は、鍋島町八戸溝に位置しています。クリークに囲まれており、ひっそりと佇む姿は独特の雰囲気を感じさせています。また、管理が行き届いていることから地域の人から愛されていることが伺えます。

クリークと島と社がおりなす景観が佐賀市特有の景観であるといえます。



36

【第15回】平成23年度(2011)

所在地: 城内一丁目、二丁目
管理者: ハス再生実行委員会
活動開始年: 2008年(平成20年)
見頃: 〈ハスの葉〉
6月下旬～8月中旬
〈ハスの花〉
7月初旬～中旬の早朝



ハス再生活動



【作品講評】

ハス再生活動は、第6回都市景観賞を受賞した「城内のお濠周辺」からハスが消滅したことをきっかけにはじまりました。
「ハス再生実行委員会」を立ち上げ、『民・学・官』の協働でハスの再生に取り組んでいらっしゃいます。
50年ぶりに行なわれたお濠の「ごみくい」や生態系を考える「シンポジウム」など、城内の景観のあり方を考えられての活動が評価されました。
景観を「まもり、そだて、つくる」活動は、歴史・文化や人との繋がりを「まもり、そだて、つくる」活動の成果として表れることを体現されており、今後このような活動を継続し、また波及してほしいという想いもこめての受賞になりました。

【第16回】平成24年度(2012)

所在地: 水ヶ江三丁目
設計者: 株式会社ジーエー・トップ
施工者: 株式会社マベック
構造: 鉄筋コンクリート造平屋建
完成年: 2011年(平成23年)



MIZ P-CSR研究所



【作品講評】

MIZ P-CSR研究所は、佐賀城公園の南東に建っています。四季の変化を感じさせる約200種・3600本の樹木や草花に囲まれたこの建物は、株式会社ミズの会議室や研修会場として活用されています。
企業の建物は、無機質でアクセスがしやすいだけの空間になりがちですが、MIZ P-CSR研究所の建物は道路から距離を置き、威圧感のない平屋、白い外観で構成されており、更に、プライバシーを守りながらも浸透性を感じる設計になっています。
すぐ近くを流れる多布施川の流れを意識した水辺の風景や、佐賀城公園からのつながりを感じさせるたくさんの木々が通りにも潤いを与えています。
(出典:MIZ P-CSR研究所パンフレット)

【第16回】平成24年度(2012)

所在地: 唐人二丁目
構造: 木造2階建
完成年: 明治初期



古田邸



【作品講評】

古田邸は、唐人町にたたずむ町家建築(※10)です。町家として建てられた建築物は、一般的には、通りに面する外観には配慮をしても、隣の建築物との境界や裏側など、隠れて見えない部分には特別な配慮をしないことが多いようです。この古田邸も建築された当時は一般的な町家同様であったと思われますが、時の流れとともに周囲の建物がなくなり、空間ができたことにあわせて建物の改修をされています。元来の建物を残しながら、更に周囲の空間の変化をも取り込み、快適であるだけでなく周囲にも配慮した住まいづくりをされていることが評価されました。

【第16回】平成24年度(2012)

所在地: 富士町大字上無津呂
管理者: 相尾地区のみなさん



相尾集落



【作品講評】

相尾集落は、富士町上無津呂の山あいにあります。この集落には赤瓦を使った家が多く、木々の緑に屋根の赤が映えとても印象的です。また、赤瓦のインパクトだけでなく、どの建物もどっしりとして質が高く、小屋や庭、田畑にまで手入れが行き届いています。
古くは茅葺き屋根の家も多かったようですが、茅葺き屋根は、台風や火事の被害を受けやすく、時代の流れによる茅葺き職人や植物の茅自体の減少も影響して瓦に葺き替える民家が増えたそうです。
相尾集落で使われている赤瓦は、寒冷地が多い山陰地方に源流を持つ石州瓦で、雪深い山あいの相尾集落に非常に適しています。暮らしやすさを追求しながらも集落全体で絵になる景観をつくり出しています。

【第16回】平成24年度(2012)

所在地: 久保泉町大字川久保
帯隈山山麓
活動団体: 久保泉町天然記念物
えひめあやめ自生南限地帯
自然環境保全会
活動開始年: 1994年(平成6年)
見頃: 3月下旬～4月初旬



久保泉町えひめあやめ保全会の活動



【作品講評】

久保泉町の帯隈山では、毎年3月下旬から4月上旬頃、小さくてかわいい紫色の「えひめあやめ」が花を咲かせます。この花は、はるか太古に大陸から南下してきた植物で、日照・風通し・水はけといった条件が揃わないと消滅してしまいます。国内でもしだいに自生地が減少し、帯隈山を含む西日本の5ヶ所は、「えひめあやめ自生南限地帯」として国の天然記念物に指定されています。

保全会では、定期的に株周りの草刈りを行い、夏と秋には住民とともに自生地全面の草刈りをするなど、一年を通して環境整備に取り組まれています。開花の時期に合わせて毎年開催される「えひめあやめまつり」は平成6年から18回(受賞当時)を数え、この時期には地元の中学校とタイアップしたスケッチ大会も開催されています。更に、自生地とは別に設けた「育成地」では、保全会が種を取り、播種して大切に育てた株を地元の小学生と共に植える活動もされています。保全会のメンバーを中心に、住民あがりの地道で長い取り組みがまちづくりの核となっていることから特別表彰の受賞となりました。

【第17回】平成25年度(2013)

所在地: 久保泉町大字下和泉
設計・施工者: 有限会社夢木香
構造: 木造一部2階建
完成年: 2013年(平成25年)



サガ電子工業株式会社



【作品講評】

久保泉第2工業団地に入るとどっしりとした風格のあるサガ電子工業株式会社の建物が迎えてくれます。この建物は、築100年を超える武雄の酒蔵と築80年近い有田の米蔵を移築し、自然に還る素材を利用して再建築された工場と社屋です。建築時には久保泉小学校の1、2年生による土壁塗り体験も実施され、地域の子供たちに貴重な経験の場を提供されています。

蔵の持つ調湿・調温機能を最大限に生かして省エネ、省資源といった先駆的なエコ活動を実践しながら、時代を経た蔵を再利用した美しい景観を創造されています。

【第17回】平成25年度(2013)

所在地: 高木瀬町大字東高木
構造: 木造2階建
完成年: 1860年代(江戸後期)



土井邸



【作品講評】

佐賀警察署(現・佐賀北警察署)から金立町へ続く道の途中、東に広がる高木瀬東の寄人団地を通り抜け、佐賀らしい田園風景を左右に眺めながら進むと土井邸のたたずむ集落があります。土井邸は、江戸後期に建築されたものと伝えられ、時を経た建物の存在感に加え、所有者の建物への愛情が強く感じられます。

木々の緑に囲まれた前庭の奥に設けられた土間は開け放たれ、大きなテーブルが据えられています。冬は薪ストーブも置かれるこの空間は、時の移ろいを横目にゆったりとした時間が流れる地域コミュニティの場となっています。また、土井邸の北側を見渡すと脊振山系が横たわり、山々から続き広がる佐賀平野北部の田園を一望できます。佐賀の原風景とも言える景観です。

【第17回】平成25年度(2013)

所在地: 八戸一丁目
設計・施工者: 内川工務店
構造: 木造平屋建
完成年: 2007年(平成19年)



古川邸



【作品講評】

古川邸は、先祖が営んでいた造り醤油屋の蔵を改修し、住宅として生まれ変わりました。築140年を超え、老朽化してしまったこの蔵をどうするか悩まれた末、外壁等を丁寧に解体し、先人の知恵に触れた所有者は、当時の建築の技術や素材の素晴らしさに感心し、建物本体の柱や梁をそのまま残して利用することにされました。昔ながらの屋根瓦は庭に飾り、思い出の詰まった土台石や石臼も踏み石として使われています。

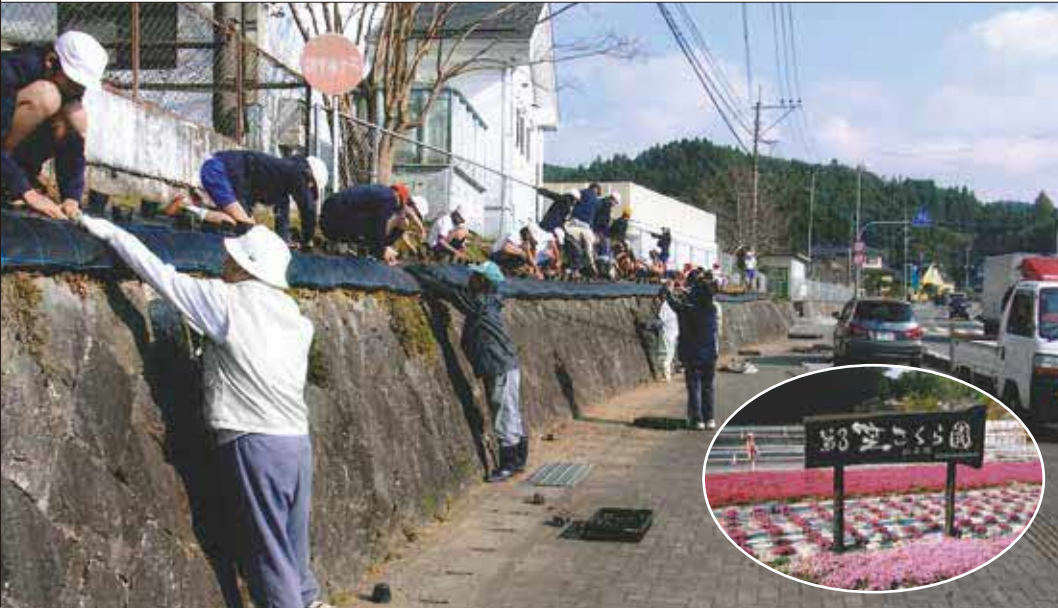
長崎街道に面して建っている古川邸の周囲には、かつて伝統的町家建築(※10)が連なっていましたが、近年、これらの建築物は次々と取り壊され、現在は空き地やモダンな家並みへと変わってきています。古川邸のように新しい感性を取り入れつつも歴史的な景観と融合して長崎街道の景観を守っていくという姿勢が佐賀市全体へ広がることを期待します。

【第17回】平成25年度(2013)

所在地: 三瀬村
活動団体: 佐賀市三瀬村
老人クラブ連合会
活動開始年: 2001年(平成13年)
見頃: 〈シバザクラ〉
4月初旬～5月下旬
〈スイセン〉
2月末～3月中旬



三瀬老人クラブの花いっぱい活動



【作品講評】

三瀬村老人クラブでは10数年(受賞当時)にわたり「花いっぱい活動」を実施されており、国道263号線沿線の三瀬校を中心に整備された4箇所の「芝さくら園」は毎年4月頃ピンク色の絨毯で覆われます。
シバザクラの苗づくりや手入れといった一年を通じた活動は、老人クラブメンバーだけでなく三瀬の小中学生と一緒に実施されています。近年では「三瀬のシバザクラ」と呼ばれるまでに成長し、シバザクラが三瀬校のシンボルマークに採用されました。
また、平成20年からは道路沿いにスイセンを植える活動も始められ、現在の総延長は700mにのびます。「黄色いガードレール作戦」と呼ばれるこの活動は、花のある村作りに加えて、交通事故の予防という願いも込められています。
ふるさとの景観を良くし、隣県からの訪問者を美しい花でもてなしたいというスケールの大きな地域づくりが高く評価されました。

【第18回】平成26年度(2014)

所在地: 本庄町大字本庄
設計者: 株式会社梓設計
施工者: 金子建設株式会社
構造: 鉄骨・鉄筋コンクリート2階建
完成年: 2013年(平成25年)



佐賀大学美術館・正門周辺

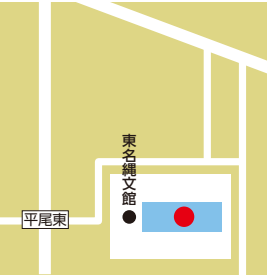


【作品講評】

『佐賀大学美術館・正門周辺』は、「旧佐賀大学」と「佐賀医科大学」の統合10周年を記念し、本庄地区の沿道・交差点の一角に整備されました。
美術館はガラスを多用することで開放感にあふれ、軒の水平ラインが外に向かって伸びやかな広がりをつくりだしています。正門周辺には塀や門柱などを設置せず、新たに時計塔やバス停、緑地などを設けることなどにより、近隣との隔たりをなくし、地域に開かれた大学を象徴しています。更に、夜間になると明かりが灯り、沿道や地区における夜の景観づくりに貢献しています。
大学としての風格を保ちつつキャンパスイメージを一新させ、道路拡幅によって変容する周辺地域と融合を図った作品です。

【第18回】平成26年度(2014)

所在地: 金立町大字千布
管理者: 国土交通省
完成年: 2009年(平成21年)



巨勢川調整池(東名遺跡)



【作品講評】

『巨勢川調整池』は、巨勢川流域の洪水被害を軽減することを目的として、田園の広がる金立町千布に建設されました。約55haにおよぶ土堤に囲まれた調整池内には、今ではススキや葦などの植物が自生し、70種余りの野鳥も観察されるなど、動植物を含む広大な自然景観が生み出されています。また、揚排水施設として設けられた大規模な建築物等は、その大きさを考慮した配色、上層に向けて明度を変化させるなど、周辺に馴染むよう配慮されています。
更に、この建設工事に伴って、およそ八千年前(縄文時代早期)のものとされる『東名遺跡』が奇跡的に発見されました。縄文文化を知る上で重要な日本最古級の遺物が多数出土しており、貴重な貝塚の一部は現地地中に保存されて調整池と共存しています。
大規模な現代の人工構造物でありながら、太古の遺跡を内包し、さらには生物を育む広大な自然的景観を創出するすぐれた実例です。

【第18回】平成26年度(2014)

所在地: 兵庫北五丁目
活動団体: 兵庫北まちなみづくりの会
活動開始年: 2006年(平成18年)



兵庫北のまちづくり



【作品講評】

兵庫北地区は、区画整理事業や大型ショッピングセンターの進出に伴い、新しいまちが誕生しています。様々な開発や車の渋滞などもみられる地域ですが、大型ショッピングセンターに近接する2街区・22戸(兵庫北5丁目4番および5番)では、住民と住宅建設業者が「兵庫北まちなみづくりの会」を組織し、独自のまちなみルールをつくりました。それぞれの住まいがしっかりと緑を育むことで潤いのある閑静な住宅地が形成されており、家々からなる地域のオアシスともいえるでしょうか。
また、この住宅地には、交流の拠点となっている「みんなの広場」と名づけられた広場があります。子どもたちでも自由に安全に行き来できるよう、広場に隣接する境界フェンスが一部取り除かれました。住民による清掃活動や懇親会などの地域行事が育まれている様子からも、まちなみづくりを介したコミュニティが生まれていることが分かります。

【第19回】平成27年度(2015)

所在地: 城内二丁目
所有者: 佐賀県
設計者: 株式会社坂倉建築研究所
施工者: 大成建設株式会社九州支店
構 造: 鉄筋コンクリート造4階建
完成年: 1963年(昭和38年)



市村記念体育館とその周辺



【作品講評】

佐賀城址の北濠沿いに市村記念体育館は位置しています。ほどよい大きさと立地により市民利用が多く、隣接する佐賀県立図書館、大楠をはじめとする木々や水辺、広場とともに人々に開かれた公共空間が形成されています。

市村記念体育館は近代を代表する建築家 坂倉準三氏が設計し、市村清氏により寄贈されてすでに半世紀の歴史を有します。柱のない内部空間をつくるため、鉄とコンクリートによる当時の技術的革新が伺え、それらに規定されたユニークな建築形態をもっています。時を経た今日、木々につつまれたこの建築は彫塑的・有機的などと人それぞれに情景が想起されるといえるでしょう。

近世の佐賀城の土地に根ざした日本のモダニズム建築、それは今日のわたしたちの景観であり、佐賀を代表する大切な景観です。

【第19回】平成27年度(2015)

所在地: 富士町大字下合瀬
構 造: 木造平屋建
完成年: 江戸末期～明治初期(伝聞)



北山窯とその周辺



【作品講評】

北山窯は北山湖の近く、山間にあって少し開けた田園風景に屋敷を構えています。川に沿った県道に面して生け垣や建物が連なり、草葺き民家の大きな屋根、赤瓦の土蔵が景観のアクセントとなっています。

陶磁器窯・作業場、ギャラリー、住居からなる屋敷は、30年ほど前(受賞当時)に診療所兼住宅に現在の当主が移り住んだことに始まります。幾度も改築や改修がなされ、近年の台風被害後にも職人が不足するなかで草葺きで屋根の改修が行われています。また、土蔵の漆喰壁(※19・※20)には左官職人の技である鰻(こて)絵も保全されています。

古民家を未来へと住み継ごうとする思い、山や川、田畑と調和した営みの風景、時を超えた物語が感じられる景観です。

【第19回】平成27年度(2015)

所在地: 道祖元町
設計者: 株式会社山崎健太郎
デザインワークショップ
施工者: 株式会社安藤・間 九州支店
構 造: 鉄筋コンクリート造平屋建
完成年: 2014年(平成26年)



さやのもとクリニック



【作品講評】

道祖元(さやのもと)町は、伝統的な町家(※10)が残るまちなみで、通り是与賀神社にまで延びています。さやのもとクリニックは、このまちなみとともに低層の建築として成立しています。

その南側は東西に伸びる通りに面し、北側は国道に面する敷地の中央に、南北を貫く赤レンガの壁が特徴です。この壁面の東側に、長細く、植栽とともにあるガラス張りの待合スペースが設けられ、面や線の空間操作により多彩な内外のシーンが仕込まれています。また、赤レンガの門柱はかつてここにあった洋館の一部を継承し、趣のあるサインとなっています。

クリニック(診療所)でありながら明るく、歴史的な通りに対して現代的な佇まいと潤いを与えています。

【第19回】平成27年度(2015)

所在地: 天神二丁目
設計者: 株式会社山田デザイン研究室
施工者: 松尾建設株式会社佐賀支店
構 造: 木造平屋建
完成年: 2012年(平成24年)



千葉邸



【作品講評】

千葉邸は、佐賀駅から伸びるシンボルロードに近く、高層の建物の増える市街地の中にあって、平屋の住宅として佇んでいます。

母屋から連続する屋根と道路に面する屋内車庫の屋根、玄関前のアプローチ空間やセットバック(※6)した壁面、外からも見え隠れする庭園の樹木や沿道の植栽、それらがまとまりのよい美しい屋敷構えとして上手く構成されています。また、雨樋の処理、植栽端部の自然石や無垢の木戸、壁面の仕上げ方など、細部のデザインも丁寧かつ適切な工夫が施されています。

まちなかの住まいをしっかりと確保しながら、まちに清々しさをもたらす新しい住宅の提案です。

【第20回】平成28年度(2016)

所在地: 与賀町
設計者: 株式会社黒川紀章建築
都市設計事務所
施工者: 三井住友建設株式会社
松尾建設株式会社
構 造: 鉄筋コンクリート造8階建
完成年: 1976年(昭和51年)



お濠とホテルニューオータニ



【作品講評】

昭和51年、ホテルニューオータニ佐賀は佐賀市他県内で開催された若楠国体にあわせてお濠端で開業しました。設計は黒川紀章建築都市設計事務所、地方都市における「リゾート的要素」や屋根を中心とした「シルエット」などがテーマとされました。

時代を経た今なお、お濠や楠とともにあるこの建築は市民や来訪者に良質な場を提供し続けています。周囲と比べて大きな建物でありながらも環境になじむ都市の景物と言え、建物の中からも水や緑の佐賀を心地よく感じることができます。お濠端の上品なランドマークであり、これからも大切にしたい空間です。

【第20回】平成28年度(2016)

所在地: 川副町



県道49号線から見る佐賀平野



【作品講評】

県道49号線は市街地から有明海へとまっすぐに南へ向かう一本の道路です。特に沿岸部の区間は、樹木や電線などの地平、地物を遮るものが一切無くなる「視点場」と言え、「佐賀平野」を強く感じさせてくれます。

佐賀平野は、海や干潟であったところに人々が干拓や開墾を繰り返すことによって、今日の営農や居住の場として大地がかたち創られてきました。この広大な風景から、佐賀の始原、歴史や文化に思いを馳せることもできるでしょう。さらに、海辺の佐賀空港を利用する人々は、この風景に見送られ、迎えられるともいえるでしょう。

四季とともにある美しい平野の営み、「佐賀」の文明や文化を想起させる景観です。

【第20回】平成28年度(2016)

所在地: 川副町大字南里
設計者: 建築企画工房・
小路一級建築士事務所
施工者: 《工場》株式会社中野建設
《店舗》林田建築
《造園》株式会社久保造園
構 造: 木造一部鉄筋コンクリート造
平屋建
完成年: 2007年(平成19年)



川原食品肥前みふく庵



【作品講評】

肥前みふく庵は、川副町南里の平坦な田園地域、県道48号線沿いにあります。一般に、店舗の沿道は車両や駐車場のアスファルトが目立つのですが、この道路端には石積みや生垣、立木などの自然的要素が配されていることで潤いを感じさせてくれます。敷地中ほどの小さな店舗の前面には広い芝生ひろばを特徴とするランドスケープ(※24)が仕掛けられ、さらに敷地の奥に配された切妻(※2)、平入り(※11)で大屋根の食品工場兼事務所は周囲への配慮とともにこの地域の大きな空との関わり方も良好です。

沿道の広い敷地を有効に使い、自然的要素を効果的に組み入れた工場および店舗づくりと言えます。

【第20回】平成28年度(2016)

所在地: 三瀬村三瀬
構 造: 木造平屋建
完成年: 2007年(平成19年)



カフェ「クロモジ」



【作品講評】

佐賀市三瀬村三瀬の「クロモジ」は、営業を知らせる小さな看板がかかる一般道から山の小道を上り、小川の横に佇んでいます。

放棄地の開拓から始め、カフェの完成までに数年をかけてすべてほぼ自力で取り組み、さらに奥の住み家もオーナー自身により造作されています。カフェは切妻の屋根(※2)、木造平屋の簡素なつくり、木漏れ日や適度な空地(くうち)など、山の雑木の中で建物の内と外の関係が上手く仕組まれています。

自然と対話する家族の営み、物語のある居場所、それらの総体として心地よい場が創造されています。

【第20回】平成28年度(2016)

所在地: 富士町大字古湯
活動者: 山中 明郎
活動開始年: 1996年(平成8年)
見 頃: 6月下旬～7月初旬



古湯山なか紫陽花の道



【作品講評】

この取り組みは、富士町古湯の山あいにて約20年前(受賞当時)に始まりました。ほ場の基盤整備に伴ってあぜ道がアスファルトの道路となり、ここに彩りをとの思いで始められたそうです。紫陽花(あじさい)の株を年々増やし、その連なりは人里離れた棚田の端で500mにも及び、初夏の開花時には来訪者のある隠れた名所となっています。

個人の営為の積み重ねが育んだ紫陽花の道、それが広く人々を楽しませるまでに成長した希有ですばらしい取り組みです。

【第21回】平成29年度(2017)

所在地: 東佐賀町
設計者: ie工房 弘祐
施工者: 古川建設
構 造: 木造2階建
完成年: 2007年(平成19年)



ぎゃらりー喫茶 楽(まどい)



【作品講評】

まどいは草葺き古民家を移築し、柱梁などを積極的に活かして平成19年に喫茶兼ギャラリーとして再生されました。

むくり(※25)のある金属屋根は、草葺きの屋根のシルエットに相似させたもので、漆喰(※20)の白壁、木製の建具などの伝統的な要素を随所に見ることができます。建物の周りには竿石を敷き詰め、店のサインにも古材や自然素材が利用されています。ほど良く手入れされた木々にも潤いや心配りを感じさせ、それらからなる店構えは沿道の良好な景観形成に寄与しています。古い要素をふんだんに用いつつ、繊細かつ重厚な新しい佇まいを成立させた作品です。

【第21回】平成29年度(2017)

所在地: 大財三丁目
構 造: 木造2階建
完成年: 1914年(大正3年)

森邸と庭園



【作品講評】

森邸の主屋は大正3年の建築とされる重厚な構えの住宅で、瓦屋根の漆喰(※20)は後年の補強と推測されます。洋風の意匠をもつ西側建物には細工の施された銅板葺の下屋があり、屋敷の塀にはモルタル洗い出し仕上げが用いられるなど、大正期や昭和期の様々な要素が見られます。松などの庭木、石灯笼や飛び石によるアプローチが印象的で、住まいと調和する良質な庭園が維持されています。

大財通りに通じる町中でありながら、潤いや古い要素からなる小宇宙が長く温存されてきたともいえるでしょう。これからも大切にしたい良質な景観です。

【第21回】平成29年度(2017)

所在地: 開成六丁目
活動開始年: 2011年(平成23年)

花しょうぶの咲く新村川



【作品講評】

新村川は佐賀城下に通じる多布施川の上流部、後家井樋から取水される人工の水路です。この歴史的な水利施設に着目し、開成地区を西から東へと貫通する約450mにわたり菖蒲が植えられ、草取りなど日々の手入れに支えられて、初夏には一直線に花を咲かせます。

一般的に道と水路の境界にはガードレール等が設置されますが、ここでは菖蒲の連なりによって道と水路が一体となる景観をつくっています。人々の暮らしに近い優れた生活環境のデザインであり、コミュニティーをも育む取り組みとして高く評価できます。このような活動が地域とともにこれからも維持されることを期待します。

【第22回】平成30年度(2018)

所在地: 川副町大字早津江
構 造: 木造2階建
完成年: 明治期以前(口伝)

渡辺邸



【作品講評】

渡辺邸は、屋根の形態から「くど造り(※16)」とされる民家であり、これは世界的にみて筑紫平野(佐賀平野)にのみ見られる特徴です。南側からのヨシ葺き民家のすがたは、前庭、作業空間(かど)、納屋などを含み、佐賀らしい農家の佇まいを感じることができます。

明治期以前とされる母屋は、昭和初期頃に北側に別の棟を移築するなど母屋の拡大が成されています。その後も西側水路沿いの台所、2階の子供部屋の追加など、家族の生活に対応させる増改築が行われています。

また、平成3年に北部九州に上陸した台風の被害に伴い、現所有者の先代によってヨシ屋根の全面的な葺き替えが、さらに平成29年には現当主により西側と北側の葺き替えが行われ、今後も維持する意向がうかがえます。

近年、減少の一途をたどるヨシ葺きのくど造り民家が保全され、それが長年の手入れの積み重ねの結果であることを知らしめる貴重な存在です。

【第22回】平成30年度(2018)

所 在 地: 呉服元町
設 計 者: 株式会社ワークヴィジョンズ
施 工 者: 株式会社大洋建設
構 造: 鉄筋コンクリート造4階建
完成年(改修): 2018年(平成30年)

ON THE ROOF



【作品講評】

佐賀に限らず多くの地方都市では、いわゆる雑居ビルの利活用は大きな課題です。ON THE ROOFは、築45年以上経過した鉄筋コンクリート造、4階建てのビルを全面的にリノベーションした一つの成功例といえます。

1階の「LIFT COFFEE」をはじめ、各階において、既存の要素に新たな要素を加えつつ、部分と全体が巧みにデザインされており、また、その背景には若者などを引きつけるしっかりとしたコンセプトがあることも伺えます。

近年、まちなか再生などとして、佐賀市の呉服元町界隈が賑わいをとりもどしつつある中で、10年間ほど使われていなかったビル全体の優れたデザイン、新たな需要を喚起する景観です。



【第22回】平成30年度(2018)

所 在 地: 城内一丁目
設 計 者: 株式会社ケイス
施 工 者: 松尾建設株式会社
構 造: 鉄骨鉄筋コンクリート造
完成年(改修): 2018年(平成30年)

JONAI SQUARE



【作品講評】

平成30年3月にJONAI SQUAREは城内地区の街角にオープンしました。現代的でシャープなデザインは秀逸であり、庇(※5)やロゴのデザイン、水辺のテラス、通り沿いの緑化やベンチの設置など、外部と内部の境界を良い意味であいまいにする取り組みといえるでしょう。

民間の事務所・業務建築を人々や町に開いた作品であり、町にとって重要なクロスポイント、その立地や町の風格を尊重しつつ、人々にとって心地の良い新しい居場所を創出した優れた景観です。



【第22回】平成30年度(2018)

所在地: 城内一丁目
所有者: 佐賀県
設計者: 高橋龍一、内田祥哉
施工者: 松尾建設株式会社
三井住友建設株式会社
構 造: 鉄筋コンクリート造3階建
完成年: 1970年(昭和45年)

佐賀県立博物館とその周辺



【作品講評】

佐賀県立博物館は明治100年を記念して1970年に建築され、当時として構造技術への新たな挑戦、また宙に浮かぶ意匠が特徴であり、日本建築学会賞を受賞するなど建築界ではとても有名な戦後近代の建築作品です。そして本年(平成30年)、まもなく築後50年を迎えるこの期に、明治維新150年を記念して周囲には岡田三郎助アトリエが移築されるなど、新たな取り組みが始まっています。

これまで屋根の修繕などが施されながら維持されており、今もなお県民に親しまれる存在感のある記念碑的な建築といえるでしょう。現代に生きるモダニズム建築として、将来にむけて大切にしたい景観です。



【第22回】平成30年度(2018)

所在地: 諸富町大字山領
活動団体: 諸富花いちもんめの会
活動開始年: 2008年(平成20年)
見頃: 3月下旬～4月初旬



諸富花いちもんめの会の活動



【作品講評】

諸富花いちもんめの会は、平成20年から「チューリップまつり」の開催をはじめ、平成30年で11回を数えます。旧国鉄佐賀線沿いの休耕田が活用され、土手上の自転車道からも見下ろせる場所に約5000株の春のチューリップを楽しむことができます。

翌年の春の開催に向けて、5月に球根掘り、11月にはチューリップの球根の植栽と、ボランティアや近隣の幼児などの参加によって行われます。あわせて当団体では、平成29年度から国鉄佐賀線の在りし日の写真などを募集し、昭和のすがたを記憶すべく、資料収集や展示の取り組みも行っています。

これらの活動は、希薄化した人と人の交流を促すこと、ほ場整備等で変化した地区において環境美化推進などを意図していることも大きな特徴です。花づくりのイベントをきっかけとする地域への愛が感じられる取り組みです。

【第23回】令和元年度(2019)

所在地: 富士町大字古場
構造: 木造2階建
完成年: 1936年(昭和11年)頃



さん ちよう か 三調家



【作品講評】

三調家は古くからの母屋と改修の施された付属屋、そして木々の空間により構成しています。母屋は、旧吉富家として昭和11年ごろ(口伝)に建築され、土間のある構成、地場の木材による架構(※26)など、当時からの要素を温存し、現在はカフェ兼住宅として活用されています。その東側の付属屋はかつて曳屋(ひきや)(※27)を含む大規模改修が施され、現在は一棟貸しのゲストハウス、来訪者が滞在できる生活空間となっています。沿道の広葉樹を中心とした木々の空間には山からの湧き水が流れ、木漏れ日のある小道を抜けて母屋へと向かうことのできる心地のよい空間です。

新たな価値付けとともに山中の暮らし方を継承し、訪れる人々の心にも働きかける景観といえるでしょう。

【第23回】令和元年度(2019)

所在地: 八戸溝三丁目
設計者: 野中建築設計事務所
施工者: 株式会社NONAKA
構造: 木造2階建
完成年: 2018年(平成30年)



桜島邸



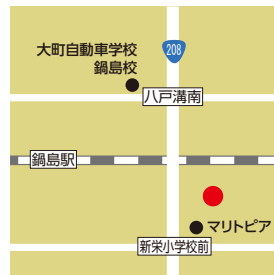
【作品講評】

桜島邸は、親世代から引き継いだ八戸溝地区の住宅敷地において、新たに営まれた住宅建築です。沿道は塀のない前庭として外に開き、四季を感じさせる落葉樹によって作庭し、駐車スペースや玄関アプローチは自然石を用いて細部にまで手仕事の装いがほどこされています。前庭の自然物と建築形態のバランスもよく、道行く人々が潤いを楽しみ、また、生活を外に開かずない配慮など、内部と外部、自然物と人工物のほどよい関係が巧に仕組まれた住まいのかたちといえます。

屋敷を外に開き、自然とともに凜とした佇まいを成立させた秀逸な住宅作品です。

【第23回】令和元年度(2019)

所在地: 新栄東三丁目
設計者: 小川博央建築都市設計事務所
施工者: 株式会社中野建設
構造: 鉄骨造6階建
完成年: 2018年(平成30年)



ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピア(ホテル棟)



【作品講評】

ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピア(ホテル棟)は、片流れの傾斜屋根が北側から南側の最上階(6階)へと高く伸び上がっています。加えて、西側の壁面も傾斜させ、それをルーバーが覆っています。内と外をつなぐアプローチ空間の工夫、佐賀の強い西日への配慮など、力強い造形と外被の構成には計画的な合理が現れます。

また、地上部には自然要素を用いつつ、人のスケールにも配慮したランドスケープデザイン(※24)がなされ、笹竹は建物周りに加え、広大な駐車場全体にも巡らされています。

幹線道路沿いのランドマーク、都市型のリゾートホテルとして優れた景観デザインです。

【第23回】令和元年度(2019)

所在地:長瀬町(日新校区)
活動団体:日新青少年育成会
活動開始年:2007年(平成19年)

天祐寺川探検



【作品講評】

平成19年から始まった天祐寺川探検は、今年(平成31年4月)で13年目、春の年中行事として定着しています。子供たちはこのイベントによって川に入ることができ、生き物の観察やゴミの回収など、楽しみながら「環境・景観」を考える機会となっています。大人たちが事前の準備を行い、当日には老人会やボランティアの方々が協力し、最後にはみんなでカレーを食すそうです。子供と親、そして祖父母など、世代を超えた人々の交流の場ともなっています。

日新校区の中心を流れる天祐寺川は、多布施川からの分流、用水としての歴史を有し、加えて大雨時の防災的な役割もあります。地区を基底する「川」への着目、地域に支えられた探検プログラム、多様な意味を内包したすばらしい取り組みです。

【第24回】令和2年度(2020)

所在地:富士町大字麻那古
管理者:和田地区のみなさん

和田集落



【作品講評】

和田集落は、佐賀市富士町の山間、麻那古(まなご)地区の小集落です。それぞれの住まいは山手(北)を背に、母屋とその前面の空地(作業等のためのひろば)を南に開くことを基本とし、加えて小屋、菜園など、山間の地形や小水路とともに個々の生活空間があり、それらの集積により集住のかたちが成立しています。

8軒中5軒の母屋は茅葺き民家を継承したもので、赤茶や小豆色の金属(トタン)屋根が施されるなどの維持や更新が適切であり、時間と風格さえも感じることができます。

現在の集落はお年寄りが多いのですが、通いの住人や新しい住民もあるとのこと、ぜひとも永続的に美しく住み繁いほしい景観です。

【第24回】令和2年度(2020)

所在地:鍋島町大字森田
設計者:株式会社アルフデザイン
施工者:株式会社田久保建設
構造:木造平屋建
完成年:2020年(令和2年)

古賀眼科



【作品講評】

古賀眼科は国道と県道の交差点付近に位置し、道路沿いに芝張りの築山を巡らしています。この築山は幹線道路沿いに潤いを提供することと同時に、診療が行われる内部と道路等の外部、両者の縁(えん)を適度に切る効果が得られています。

長細い敷地に対応して建物を配し、長辺側(県道側)は平屋の屋根やその水平性がシンプルに表現され、エントランスや駐車スペース等の内外境界部にもタイル壁や小緑化などの景観的配慮が施されています。

市街地の郊外、交通量の多いロードサイドにおいて潤いと端正なかたちを両立させたる優れた景観です。

【第24回】令和2年度(2020)

所在地:呉服元町
設計者:一級建築士事務所スモコト設計
施工者:株式会社大洋建設
構造:木造平屋建
完成年:2019年(令和元年)

呉服元町ストリートマーケット -SUSIE+MOMs' Bagel-



【作品講評】

呉服元町ストリートマーケットは、駐車スペースや空地が散見される中心市街地において、「ママ」や「子ども」たちによる賑わいの実現、現代の街中に一石を投じる作品です。一見すると、木造平屋の建物は簡素であり、少ない要素による造形物とみえますが、淡いグリーンの波板、木建具、小緑化のあつかいには細部やバランスへの熟慮が認められ、さりげなさや優しさに通じるデザインの力を感じます。

加えて、通りに面した共有スペースではワークショップが開催されるなど、みんなで街を使うことの可能性、現代に求められる場の形成手法としても大いに評価できます。

【第24回】令和2年度(2020)

所在地:城内一丁目(南瀬)
活動団体:水鏡プロジェクト実行委員会
活動開始年:2016年(平成28年)



水鏡プロジェクト



【作品講評】

水鏡プロジェクトは、2016年度に始まり、2020年秋の催しは5年目となります。佐賀県建築士会の有志によりスタートし、いまでは赤松まちづくり協議会をはじめ、多くのボランティアとの共働の取り組みとして成長しています。水面上の無数の明かりの灯し方は苦労や試行錯誤があったとのこと。また、2020年はコロナ禍の影響で中止も検討される中、地元からの強い要望と協力の支えにより実現できたそうです。

歴史的な環境資産である佐賀城址のお濠やその水面に着目し、それを市民が楽しめる新しい夜の景観づくりと評価でき、今後も秋の風物詩として定着することを期待します。

【第25回】令和3年度(2021)

所在地:多布施一丁目
設計・施工者:松尾建設株式会社
構造:《事務所棟》鉄骨造6階建
《会議室棟》木造2階建
完成年:2018年(平成30年)



松尾建設株式会社本店と緑化空間



【作品講評】

松尾建設株式会社本店の前面を通る幹線道路(国道264号)は、平成期に電線の地中化、植栽や自転車道などが整備されました。沿道には個々に建築行為が進むものの、大小の開発や未利用地が散見されるなど、その景観形成は道半ばといえるでしょう。

そのような中、松尾建設株式会社本店は、水路沿いの比較的大きな敷地にて高層建物とともに十分な緑化空間を担保した良好な沿道景観に寄与しています。また、業務施設が郊外へと移転しがちな今日、本店機能を中心市街地内で移転・新築したことはまちづくりの観点から大いに評価できます。

建物の周囲には高木や低木、落葉樹や常緑樹などの多様な植栽がなされ、敷地境界や玄関アプローチには石積みや竿石(さおいし)が用いられています。さらに、低層建物(会議室棟)は木造建築であり、高層の事務所棟にも新しい木材使用が試みられるなど、地球環境に配慮した現代建築を標榜していることも特筆できます。

【第25回】令和3年度(2021)

所在地:大和町大字尼寺
設計者:柳瀬真澄建築設計工房
施工者:有限会社筑羽工務店
構造:木造2階建
完成年:2018年(平成30年)

大和町の家



【作品講評】

大和町の家は多布施川の上流、河畔公園近くの住宅地の一角に位置し、湖畔側の北の庭と住宅地側の南の庭、2つの庭を持つ住まいです。

この住まいは、北と南の2方向の屋外環境と適度に関係づけられた巧妙な配置と建築の計画が成されています。敷地境界には工夫が施された透け感のある木柵が設置され、敷地の外と内を分けつつ敷地の外からも庭の広がりを感じることができます。加えて、建物はシンプルな外形とする一方で、建物のファサード(表層)(※15)や駐車スペース周りなど、細部には饒舌なデザインが施されています。

住まいと周辺環境の双方向の関係性をきめ細かい配慮とともに成立させた建築であり、シャープさと豊かさを兼ね備えた景観です。

【第25回】令和3年度(2021)

所在地:巨勢町大字牛島
管理者:佐賀県
構造:鉄筋コンクリート造
完成年:1932年(昭和7年)



牛島橋



【作品講評】

牛島橋は昭和7年に当時の国道34号の旧城下町(旧市街地)の境界部に建造され、石材を用いた重厚な意匠は今なお健在です。

この橋の少し上流側には長崎街道から城下町への東の入口、木戸や番所のあった牛嶋口があり、佐賀市が近代化する途上の道路建設に伴い、旧牛嶋口付近にて新たな鉄筋コンクリート造の牛島橋が建造されました。力強い石造の親柱はこの場所にふさわしく、高欄にも自然石や石材を模した洗出し仕上げが用いられています。この種のデザインは同時期に多数建造されたようですが、現存する規模の大きな橋として貴重です。

佐賀の昭和初期の橋のたたずまいを今に伝え、今なお旧城下町への入口を顕在化させるランドマークといえる景観資源です。

【第25回】令和3年度(2021)

所 在 地: 川副町大字犬井道
 活 動 団 体: さかのぎ
 活動開始年: 2012年(平成24年)



黄金に染まる初夏の麦畑と麦秋カフェ



【作品講評】

佐賀平野の米と麦の二毛作は、気候風土と人々の営為の賜物といえるでしょう。その大地には四季があり、麦が穂る初夏、広い平坦地一面が黄金色に染まります。

「さかのぎ」の取り組みは、この風景に注目し平成24年に第一回「麦秋カフェ」をスタートさせ、令和3年に10年目を迎えました。毎年、初夏の二日間に、野菜のマルシェ、ピザづくり体験、麦秋の中のコンサートや麦畑ツアーなどが行われています。「季節に寄り添う暮らし」、「五感で感じる」などをテーマとし、この大地と向き合う哲学が込められています。さらに、この催しはみんなで穂りを享受する現代の祭り、地産地消、新しい「観光」など、多角的な効果が期待できます。

これまで看過されてきた景観資源への着眼であり、人々と初夏の風景や生業をつなぐ、すこぶる有意義な取り組みです。

【第25回】令和3年度(2021)

所 在 地: 蓮池町大字蓮池(蓮池公園内)
 活 動 団 体: 蓮池公園花菖蒲再生プロジェクトチーム
 活動開始年: 2020年(令和2年)
 見 頃: 5月下旬～6月初旬



蓮池公園花菖蒲再生プロジェクト



【作品講評】

蓮池公園は、明治10年頃に江戸期の蓮池藩の居館跡が公園となった場所です。佐賀江川の改修を経て、川の北側と南側にまたがることとなり、築山や池とともに桜や菖蒲の見所として知られていました。

蓮池公園花菖蒲再生プロジェクトは、景物であった菖蒲が手入れ不足で枯れていたことを憂いた市民有志の取り組みで、今年(令和3年)約10年ぶりに公園北側の水路沿いに花菖蒲の再生をみごとに成功されました。

現在の活動主体は高齢者が多いのですが、今後は若い人や子供たちも巻き込み活動を継続したいとのこと。蓮池公園は、地区にとって大切な歴史的空間であり、それを菖蒲とともに維持する活動は、地区やコミュニティ維持も期待できる極めて有意義な取り組みです。

関連年表

景観賞	年 度	主なできごと
	平成4年度 (1992)	「佐賀市都市景観条例」の制定
【第1回】	平成9年度 (1997)	「佐賀市都市景観賞」の創設 ・応募対象を国、県、市が所有するもの、及び文化財保護法で指定されたもの以外とした
【第2回】	平成10年度 (1998)	・既受賞作品を応募対象から除外
【第3回】	平成11年度 (1999)	長崎街道・柳町都市景観形成地区の指定
【第4回】	平成12年度 (2000)	
【第5回】	平成13年度 (2001)	「佐賀市都市景観賞実施要綱」改正 ・「佐賀市都市景観特別賞」の追加 ・応募対象から除外する、「国、県、市が所有するもの」を「佐賀市が建築したもの」に変更
【第6回】	平成14年度 (2002)	城内都市景観形成地区の指定
【第7回】	平成15年度 (2003)	「佐賀市都市景観賞実施要綱」改正 ・「佐賀市都市景観特別賞」の名称を「佐賀市都市景観特別表彰」に変更 「佐賀市都市景観賞 パネル展」の開始
【第8回】	平成16年度 (2004)	
【第9回】	平成17年度 (2005)	景観行政団体に移行 「佐賀市都市景観賞実施要綱」、「佐賀市都市景観賞選考委員会規約」制定 ・合併に伴う制定(1市3町1村:佐賀市、諸富町、大和町、富士町、三瀬村)
【第10回】	平成18年度 (2006)	佐賀市景観計画の策定
【第11回】	平成19年度 (2007)	「佐賀市都市景観賞実施要綱」、「佐賀市都市景観賞選考委員会規約」改正 ・「佐賀市都市景観賞」の名称を「佐賀市景観賞」に変更 佐賀市景観賞10周年記念誌発行
【第12回】	平成20年度 (2008)	佐賀市屋外広告物条例施行
【第13回】	平成21年度 (2009)	
【第14回】	平成22年度 (2010)	
【第15回】	平成23年度 (2011)	佐賀市景観計画改訂 佐賀市景観条例制定
【第16回】	平成24年度 (2012)	佐賀市景観計画 佐賀市景観条例 施行 「佐賀市景観賞実施要綱」改正 ・応募対象から除外する、「佐賀市が建築したもの」を「佐賀市が建築、所有、管理するもの」に変更
【第17回】	平成25年度 (2013)	
【第18回】	平成26年度 (2014)	
【第19回】	平成27年度 (2015)	
【第20回】	平成28年度 (2016)	佐賀市景観賞20周年記念式典開催 佐賀市景観賞20周年記念誌発行
【第21回】	平成29年度 (2017)	
【第22回】	平成30年度 (2018)	
【第23回】	令和元年度 (2019)	
【第24回】	令和2年度 (2020)	
【第25回】	令和3年度 (2021)	佐賀市景観賞 終了
	令和4年度 (2022)	佐賀市景観賞受賞作品集発行

☆ 委員長
★ 副委員長

59

第20回 平成28年(2016)	第21回 平成29年(2017)	第22回 平成30年(2018)	第23回 令和元年(2019)	第24回 令和2年(2020)	第25回 令和3年(2021)
☆	☆	☆	☆	☆	☆
佐賀大学芸術地域デザイン学部教授					
	佐賀女子短期大学准教授				
	久留米工業大学教授				
		澤野 善文【地域社会】			
		佐賀新聞社編集本部長		佐賀新聞社常務取締役編集本部長	佐賀新聞社常務取締役販売営業担当
			坂田 富士光【建築(設計)】		
			(一社)佐賀県建築士事務所協会常務理事	(一社)佐賀県建築士事務所協会副会長	
久保 和則【造園】					
(一社)佐賀県造園建設業協会理事					
●退任 久保 和男		●退任 横尾 章	●退任 三原 ユキ江		
○新任 久保 和則		○新任 澤野 善文	○新任 坂田 富士光		

受賞件数・応募件数・応募者数の推移

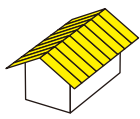
年 度	受賞物件	応募総数	作品総数	審査対象物件	審査対象外物件	応募者数
【第1回】 平成9年(1997)	5	41	37	37	0	38
【第2回】 平成10年(1998)	5	63	56	55	1	41
【第3回】 平成11年(1999)	5	94	63	63	0	72
【第4回】 平成12年(2000)	5	74	63	61	2	61
【第5回】 平成13年(2001)	3	99	76	72	4	81
【第6回】 平成14年(2002)	4	154	125	110	15	125
【第7回】 平成15年(2003)	3	150	115	100	15	121
【第8回】 平成16年(2004)	5	101	91	87	4	90
【第9回】 平成17年(2005)	3	139	109	99	10	114
【第10回】 平成18年(2006)	4	119	96	93	3	93
【第11回】 平成19年(2007)	3	165	145	138	7	121
【第12回】 平成20年(2008)	3	169	145	136	9	142
【第13回】 平成21年(2009)	4	157	134	128	6	127
【第14回】 平成22年(2010)	4	132	119	117	2	116
【第15回】 平成23年(2011)	4	128	109	109	6	95
【第16回】 平成24年(2012)	4	128	115	108	7	82
【第17回】 平成25年(2013)	4	86	80	76	4	63
【第18回】 平成26年(2014)	3	92	76	66	10	73
【第19回】 平成27年(2015)	4	171	140	124	16	148
【第20回】 平成28年(2016)	5	182	172	159	13	144
【第21回】 平成29年(2017)	3	249	214	197	17	187
【第22回】 平成30年(2018)	5	223	184	176	8	143
【第23回】 令和元年(2019)	4	202	150	147	3	175
【第24回】 令和2年(2020)	4	207	143	138	5	175
【第25回】 令和3年(2021)	5	175	141	135	6	134

用語解説

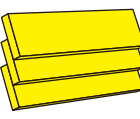
注釈	用 語	説 明
※1	入り母屋	屋根形状のひとつ。上部が切妻屋根で、下部が寄棟屋根のようにになっている屋根形状のこと。
※2	切妻屋根	本を開いて伏せたような形をしている屋根で、日本で最もポピュラーな屋根の形式。雨漏りしにくく屋根裏の換気が良いので積雪地でも対応できます。
※3	下見板張り	外壁に横板を下部から数センチずつ重なり合うように張ったもののこと、または張ることをいいます。また、下見板張りに用いる横板を「下見板」といいます。
※4	車寄せ	自動車の乗り降りのために、玄関前に設けた屋根つき部分のこと。
※5	庇(ベディメント)	窓・出入口、あるいはテラス・ポーチなどの上部に設けた片流れの屋根状のもの。
※6	セットバック	建築物の外壁を敷地境界線から後退させて建てること。
※7	生薬	植物・動物・鉱物などを、そのまま、あるいは性質を変えない程度に切断・破砕・乾燥するなどの簡単な加工・調製をして、薬用に供するもの。漢方薬・民間薬のほか、医薬品原料・香辛料・化粧品などに広く用いられます。
※8	寄棟	棟を中心に四方向に傾斜がある屋根の形のこと。
※9	妻壁	屋根面のない壁のこと。
※10	町家・町屋	間口が狭く、奥行のある店舗併用の住宅のこと。
※11	平入り	建物の各面の呼び名として、正面、あるいは屋根の棟(大棟)と平行な方向を平といいます。平入りは屋根の平らな側の壁面に出入り口があります。
※12	棧瓦葺き	断面が波形で、一隅または二隅に切り込みのある瓦。本瓦葺きの牡瓦と牝瓦を一枚に簡略化したもの。江戸時代以降普通に用いられています。
※13	妻入り	建物の各面の呼び名として、側面、あるいは屋根の棟(大棟)と直角な方向を妻といいます。妻側から出入りするものを妻入りといいます。
※14	マンサード	屋根勾配が上部はゆるく、軒に近い方で急に折れ曲がった屋根。窓を設けて、屋根裏部屋として用いられます。「腰折れ屋根」ともいいます。天井が高くとりえるというメリットがあります。
※15	ファサード	建築物の正面の外観のこと。道路側から見たときの建物の外観のことをいうので、いわば、その建物のもっとも見せ場となる「顔」ともいえる部分で、建築デザインの面ではとても重要な要素でもあります。
※16	くど造り	数棟の建物がつながって、上から見ると屋根がコの字形になるもので、その正面から見た形が、かまどの別称「くど」のように見えることからその名で呼ばれます。
※17	持送り	ひさしなど突出する部分を支えるために、壁や柱などに取付ける面材のことをいいます。
※18	アールデコ	1910年代～30年代に欧米で流行した装飾美術様式のこと。明快な配色と、直線や円弧などの幾何学的模様を中心とした様式で、機械での大量生産に、デザインを適合させた初めての様式であるといわれています。1930年ごろを頂点に、モード・ファッションからニューヨークの高層ビルまで、さまざまなデザインに影響を及ぼしました。
※19	土蔵造り	家の四面を土や漆喰で塗った構造のこと。
※20	漆喰	消石灰に麻糸などの繊維質、フノリ・ツノマタなど膠着剤を加えて水で練ったもの。砂や粘土を加えることもあります。壁の上塗りや石・煉瓦の接合に用います。
※21	築地塀	柱を立て、板を芯として両側を土で塗り固め、屋根を瓦で葺いた塀のこと。
※22	式台	玄関前の1段低くなった式板をいいます。もともとは武家屋敷で公式のお客を迎えて送迎のあいさつをする部屋にあったもので、古来より籠に乗るための板床をさします。
※23	塗籠造り	四方の壁を土壁で塗り込まれた造り。主に寝殿造りの内部で用いられています。
※24	ランドスケープ(デザイン)	景観、眺望などの環境を指す。自然環境や歴史的環境の保護・保全を目的とし、それと人とのつながりを良好にする手法。
※25	むくり	上側に反る屋根の形状のこと。
※26	架構	柱、梁などを組み合わせて造られている構造体や構造物。
※27	曳屋	建物などを解体せずに、そのままの状態で移動させる工法。



※1 入り母屋



※2 切妻屋根



※3 下見板張り



※8 寄棟



※9 妻壁



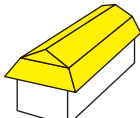
※11 平入り



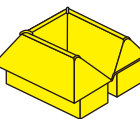
※12 棧瓦葺き



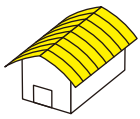
※13 妻入り



※14 マンサード

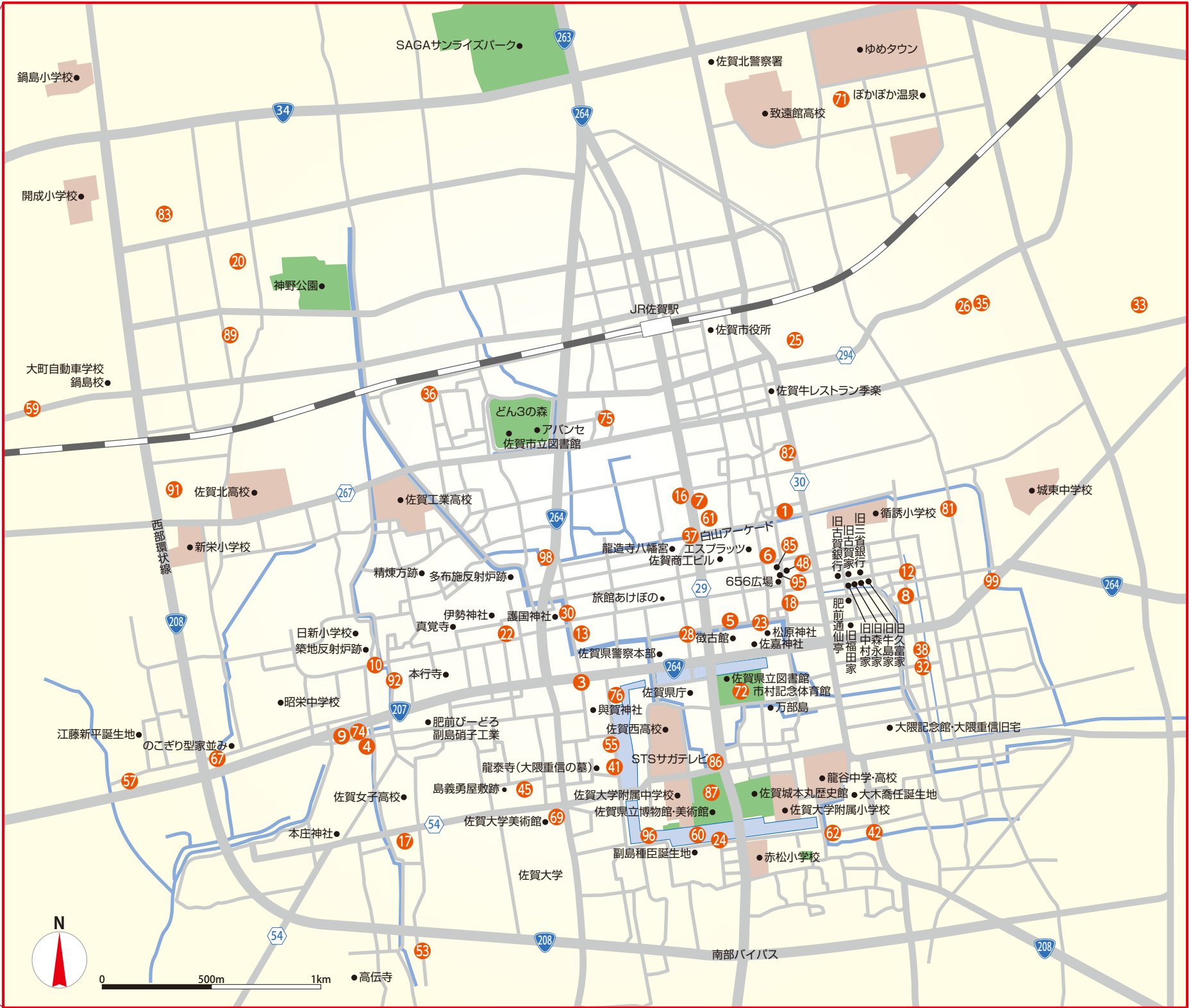


※16 くど造り



※25 むくり

景観賞受賞作品位置図



- ① 副島病院 P 5
- ② 矢竹の生け垣 P 5
- ③ 島薬局 P 6
- ④ 竹下邸の白壁 P 6
- ⑤ 数内写真館 P 7
- ⑥ 井手ビル P 7
- ⑦ コマヤ洋品店 P 8
- ⑧ 野中ウサイエン P 8
- ⑨ 道祖元町歴史的建物群 P 9
- ⑩ 北島歯科医院 P11
- ⑪ 三浦家 P11
- ⑫ 柳町・南里邸 P12
- ⑬ 古賀邸 P12

- ⑭ 蓮池蒲田津(後藤邸) P13
- ⑮ 蓮池蒲田津(田中造造) P13
- ⑯ 唐人町・緑のスポット P14
- ⑰ 岸川整形外科 P14
- ⑱ 深川製磁・佐賀店 P15
- ⑲ ㈱アルフデザイン建築事務所 P15
- ⑳ 開成4丁目 緑の前庭空間 P16
- ㉑ 野副医院 P17
- ㉒ 丸秀醤油本宅 P17
- ㉓ 佐嘉、松原神社の楠木群と松原川周辺 P18
- ㉔ 城内のお濠周辺 P18
- ㉕ 戸上電機製作所本館 P19
- ㉖ 西中野団地集会所 P19

- ㉗ 執行邸 P20
- ㉘ 島内呉服店 P20
- ㉙ 瓦町の葎薺きの民家 P21
- ㉚ 護国神社前水遊び場周辺の清掃活動 P22
- ㉛ 田中邸 P22
- ㉜ 勝木慶造商店 P23
- ㉝ 石田邸 P23
- ㉞ 瓦町の蓮の群生 P24
- ㉟ 西中野団地の生垣保全活動 P24
- ㊱ 多布施の矢竹の生け垣 P25
- ㊲ 佐星醤油 P25
- ㊳ 中島吉平商店 P26
- ㊴ 内田邸 P26

- ㊵ 江口邸 P27
- ㊶ 吉島家緞通ミュージアム P27
- ㊷ 岸川邸 P28
- ㊸ 西の谷の棚田と大串集落 P28
- ㊹ 野田邸 P29
- ㊺ 佐賀大学先端研究・教育施設 P29
- ㊻ 興止日女神社 P30
- ㊼ 東与賀大瀬・授産社堀堤防周辺 P30
- ㊽ 養膳とつい P31
- ㊾ 戸ヶ里漁港の船溜まり P31
- ㊿ 古賀邸 P32
- ㊽ 前田邸 P32
- ㊿ シチメンソウを育てる会の活動 P33

- ㊽ 本庄町溝口の矢竹の生け垣 P33
- ㊿ 宮崎邸 P34
- ㊽ 舟木邸 P34
- ㊿ 佐賀県林業試験場平成子ども記念の森 P35
- ㊽ 井手邸 P35
- ㊿ 中島邸 P36
- ㊽ 若宮社 P36
- ㊿ ハス再生活動 P37
- ㊽ 古田邸 P37
- ㊿ MIZ P-CSR研究所 P38
- ㊽ 相尾集落 P38
- ㊿ 久保泉町えひめあやめ保全会の活動 P39
- ㊽ サガ電子工業株式会社 P39

- ㊽ 土井邸 P40
- ㊿ 古川邸 P40
- ㊽ 三瀬老人クラブの花いっぱい活動 P41
- ㊿ 佐賀大学美術館・正門周辺 P41
- ㊽ 巨勢川調整池(東名遺跡) P42
- ㊿ 兵庫北のまちづくり P42
- ㊽ 市村記念体育館とその周辺 P43
- ㊿ 北山窯とその周辺 P43
- ㊽ さやのもとクリニック P44
- ㊿ 千葉邸 P44
- ㊽ お濠とホテルニューオータニ P45
- ㊿ 県道49号線から見る佐賀平野 P45
- ㊽ 川原食品肥前みふく庵 P46

- ㊽ カフェ「クロモジ」 P46
- ㊿ 古湯山なか紫陽花の道 P47
- ㊽ ぎやらりー喫茶 楽(まどい) P47
- ㊿ 森邸と庭園 P48
- ㊽ 花しょうぶの咲く新村川 P48
- ㊿ 渡辺邸 P49
- ㊽ ON THE ROOF P49
- ㊿ JONAI SQUARE P50
- ㊽ 佐賀県立博物館とその周辺 P50
- ㊿ 諸富花いちもんめの会の活動 P51
- ㊽ 梶島邸 P51
- ㊿ 三調家 P52
- ㊽ ガーデナス佐賀ホテル&マロピア(ホテル棟) P52

- ㊽ 天祐寺川探検 P53
- ㊿ 古賀眼科 P53
- ㊽ 和田集落 P54
- ㊿ 呉服元町ストリートマーケット-SUSIE+MOMs' Bagel- P54
- ㊽ 水鏡プロジェクト P55
- ㊿ 大和町の家 P55
- ㊽ 松尾建設株式会社本店と緑化空間 P56
- ㊿ 牛島橋 P56
- ㊽ 黄金に染まる初夏の麦畑と麦秋カフェ P57
- ㊿ 蓮池公園花菖蒲再生プロジェクト P57

※作品名は受賞当時のものとなります。
※赤文字の作品は受賞後解体され、現存しません。